

# 子ども虐待に対する国民意識の年次的変遷に関する研究

## —— テキストマイニング・ツールを用いた新聞記事分析を通して ——

中 村 敬  
山 田 知 子  
長 谷 川 智 子

### 【はじめに】

日本では、欧米先進諸国より約 20 年遅れて、1990 年代初頭より、子ども虐待に対する多くの関心が集まり、その存在がクローズアップされた。日本においては、かつて発見されていなかった潜在的な子ども虐待が一挙に明るみに出始めたものであり、その実態報告に触れるたびに啞然とさせられた。これを契機に社会一般の子ども虐待に対する認識が高まり、日本における子ども虐待に関する対策が、児童福祉分野を中心として、保健医療分野、教育分野、司法分野において急速に進展した。子ども虐待が急増した温床は、子育て環境の大きな変化と密接に関連し、子育て不安と呼ばれる親の心理状態に起因するものの多いこともわかってきた。この現象は欧米の子ども虐待における貧困が最大の要因になっている実態と様相を異にしていた。また、子ども虐待に関する国民の認識が高まり、発見される割合が増加したことも大きな理由であろう。最近の動向としては、身体的虐待よりもネグレクトの発見率が増加しており、国民の認識の高まりを表す傾向としては、虐待報道があると、その地域の市民による通報が増加するという。

日本では、1933 年（昭和 8 年）に児童虐待防止法が制定され、この法は 1947 年（昭和 22 年）の児童福祉法の制定により廃止されている。この制定された児童福祉法の 34 条に、かつての児童虐待防止法の児童虐待の禁止が掲げられている。この当時の児童虐待は絶対的な貧困と家父長的家族制度に基づくわが子に対する私物観が最大の要因であり、幼い子どもたちが犠牲になっていた。1989 年に国連総会で「児童の権利に関する条約」が採択された。日本もこの条約に批准しており、あらゆる手段を講じて、虐待やネグレクトから子どもを守らなくてはならない義務が課せられた。本研究では、1985 年から 2006 年の約 20 年間における新聞記事（朝日）を対象として、「児童虐待」というキーワードが見出しおよび本文に含まれる記事を、Asahi オンライン新聞記事データベースから抽出し、テキストマイニング・ツールである Word Miner を用いて分析を行った。

1985 年から 1996 年までは、キーワード「児童虐待」を含む全記事、1997 年以降はキーワード「児童虐待」を含む記事の中から、虐待事例に関する記事に限定して分析を行った。一般市民からの虐待に関する通報が急増し、不測な事態の防止に結びつきつつある。この一般市民の意識変容と新聞報道との関係を明らかにし、新聞記事に現れる文脈を通して、時間的経緯を横軸において、社会変容に関与したさまざまな法制度との相互関係を明らかにすることを目的とした。

## 【研究方法と対象】

研究方法は、テキストマイニング・ツールである「Word Miner」を用いて、1985年から2006年までの約20年間（電子化された新聞記事データベースに収録されている範囲）の子ども虐待に関する新聞報道を、電子化された新聞記事データベース（Asahi 新聞記事オンライン）より抽出し、形態素分析により、キーワードの出現頻度と出現パターンなどの構文解析を通して、その内容を表す情報や概念を抽出した。

分析対象は、オンライン新聞記事の中から検索語「児童虐待」を含む記事を抽出し、ソフト（Word Miner）の規程に従って、CSV ファイルを作成した。項目は年次、発行日、ソース（朝刊、夕刊）、面名（紙面分類）、見出し、本文とし、記事内容を「対策」、「事件」、「実態」、「意見」の4グループに分類して用いた。

Word Miner では、「年次」を質的変数とし、「見出し」と「本文」を形態素分析により、文章を切片化し、構成要素として抽出した。Word Miner では、「分かち書き」と「キーワード」の二者を出力することができる。「分かち書き」では句読点、記号、助詞を含み、「キーワード」では、名詞（句）が主となり、形容詞や副詞、動詞などの用言が抽出されない。分かち書き処理は、辞書と文章の切断ルールにより、品詞と複合語の切片（構成要素と呼んでいる）を作成する。キーワード抽出処理は、不要語辞書と抽出ルールにより、分かち書き文から、句読点、記号、動詞などの用言（例：「開発した」の「した」）を除去して、構成要素と呼ぶ名詞（句）を出力する。構成要素は同一サンプル内で複数回出現しても出現頻度は1回とカウントされる。キーワード抽出処理における最長語による構成要素の抽出方法では具体的・固有の単語・熟語が多くなる。今回は最長語によるキーワードの抽出を行った。

抽出されたキーワード（構成要素）は、単独では前後の文脈がわからない。Word miner では、検索された単語・熟語の前後の本文の中の文脈を提示する機能が用意されている（コンコーダンス）。今回出現頻度高いキーワードの出現パターンをみるためにコンコーダンス機能を活用した。

統計的分析手法としては、対応分析（コレスポンデンス分析）が用意されている。分析法の数理論に関する詳細については、ここでは述べないので参考書を参照してほしい。

【結果】

1) 1985 年から 2006 年までの約 20 年間のキーワード「児童虐待」を含む記事事件数の推移

結果は表 1 と図 1 に示した。記事事件数は 1990 年から増加し始め、1996 年頃より増加に拍車がかかり、2000 年および 2002 年に第 1 のピークを示した。いったん下降傾向を示したが、再び増加し 2004 年に第 2 のピークを示した（表 1、図 1）。

年次	件数	割合
1985	3	0.1%
1986	5	0.2%
1987	4	0.1%
1988	6	0.2%
1989	5	0.2%
1990	18	0.6%
1991	20	0.6%
1992	19	0.6%
1993	17	0.6%
1994	19	0.6%
1995	23	0.7%
1996	37	1.2%
1997	81	2.6%
1998	83	2.7%
1999	173	5.6%
2000	409	13.2%
2001	478	15.5%
2002	325	10.5%
2003	245	7.9%
2004	485	15.7%
2005	349	11.3%
2006	284	9.2%
	3088	100%

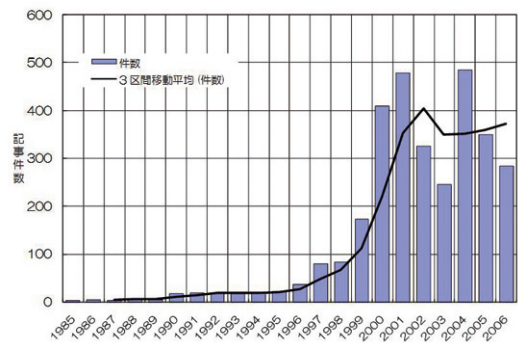


図 1 年次別児童虐待記事事件数

表 1 年次別児童虐待記事事件数

## 2) 1985 年から 2006 年までの「新聞記事見出し」における「キーワード」の出現頻度

結果は表 2 と図 2 のとおりである。この結果からみると、「児童虐待」は新聞記事の抽出に用いた検索語であり、最も出現頻度が高いのは当然であり、その年次別出現パターンをみると、1990 年頃より次第

表 2 年次別新聞記事見出しにおけるキーワード出現頻度

見出し記事 キーワード 編集(その 1)	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	行和
児童虐待	1	0	0	0	0	1	0	3	1	2	3	8	12	10	38	61	69	38	33	49	34	29	418
子ども	0	2	0	0	1	8	9	5	3	3	9	8	20	10	15	37	29	13	17	26	24	24	270
虐待	0	0	1	0	0	6	2	1	2	1	3	1	5	4	10	16	30	20	11	42	27	25	222
子育て	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	4	8	9	18	11	6	12	19	8	110
児童虐待防止	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	5	11	1	10	18	34	18	12	25	18	17	177
相談	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	2	5	15	13	6	4	10	8	6	79
親	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	2	2	0	2	7	11	6	6	11	6	7	67
児童相談所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	11	6	3	4	15	6	9	64
支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	6	6	5	6	3	7	9	5	53
急増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	8	12	6	6	2	5	2	3	49
私	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	1	4	3	5	6	3	13	2	3	46
対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	8	8	3	0	6	7	3	43
心	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	3	0	1	9	6	1	8	6	1	42
講演会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	2	6	4	6	3	5	8	1	41
当初	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	10	5	2	4	8	1	41
暴力	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	2	3	5	7	2	3	2	3	3	5	40
母親	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	6	5	4	6	3	3	3	39
連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	7	6	6	2	2	5	3	2	39
あす	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	1	3	8	3	4	4	4	5	38
予算案	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	10	4	2	4	8	1	38
お知らせ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	2	4	5	6	4	4	33
講演	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	4	5	2	6	3	3	5	33
いじめ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	1	1	1	5	2	2	5	0	5	32
シンボ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	2	2	5	4	6	2	2	2	2	32
児童虐待相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	4	8	4	2	0	4	5	32
増加	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	5	4	4	6	1	3	29
母	0	0	0	1	0	1	2	0	1	0	0	0	2	2	0	2	3	2	2	3	6	1	29
警察	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	4	7	3	1	5	0	4	27
県警	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	6	2	0	3	1	6	27
県内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2	6	1	2	3	3	2	1	2	26
現場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	3	1	4	3	6	26
講座	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2	1	2	2	3	1	7	2	26
設置	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	3	5	6	1	3	0	2	2	26
地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	2	4	0	6	2	1	26
DV	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	4	1	6	6	1	24
ネット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4	6	2	2	4	2	0	24
新設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	4	0	9	2	24
育児	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	2	5	2	1	4	3	23
発見	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	2	3	4	5	3	1	23
児童	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	0	1	1	4	3	1	2	4	1	22
発足	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	0	2	3	9	1	0	1	0	0	22
防止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	3	4	1	2	4	1	1	22
命	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	2	4	1	2	22
シンポジウム	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	2	6	5	0	2	0	2	21
家族	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2	1	1	1	2	3	2	1	21
会	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	3	0	4	0	1	3	2	2	21
開設	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	2	2	1	5	2	21
親子	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	3	5	2	3	2	1	21
人	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	1	2	4	3	21
調査	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0	3	2	2	1	0	3	2	2	21
ひと	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4	4	2	0	1	1	2	20
学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	2	0	7	2	3	20
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	7	5	1	1	2	0	2	20
早期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	2	3	3	4	1	3	20
両親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	5	5	2	1	2	1	20
列和	1	4	1	4	5	32	30	26	17	14	43	58	112	90	226	436	553	369	247	525	380	274	3632

に出現頻度が増加し、1995 年頃より急速に増加し 2001 年で第 1 のピークに達した。次いで、下降傾向を示すが、2004 年に第 2 のピークに達していた。キーワード「子育て」は 1996 年頃より出現頻度が上昇し、2001 年と 2005 年にピークを示した（表 2、図 2）。キーワード「相談」「支援」「母親」「地域」「警察」の年次別出現パターンをみると、「児童虐待」では 1990 年を過ぎる頃より出現頻度が徐々に上昇してきており、1996 年頃より加速度的に増加し始め、2001 年で第 1 のピークを示した。その後、いったん下降したものの 2004 年に第 2 のピークを向かえていた。「相談」「支援」では 1995 年頃より出現頻度が徐々に上昇し、1999 年から 2000 年で第 1 のピークを示し、その後下降し、2004 年で第 2 のピークを示した（図 3）。「母親」「地域」「警察」では 1995 年頃から出現し、「母親」「地域」では 2000 年で第 1 のピークを示し、その後いったん下降し、2003 年から 2004 年で第 2 のピークを示していた。「警察」では 1996 年頃より出現し、2001 年に第 1 のピークを示し、2004 年に第 2 のピークを示していた。多少のずれはあるが、子ども虐待と密接に関係するキーワードは類似した年次別出現パターンを示していた（図 4）。

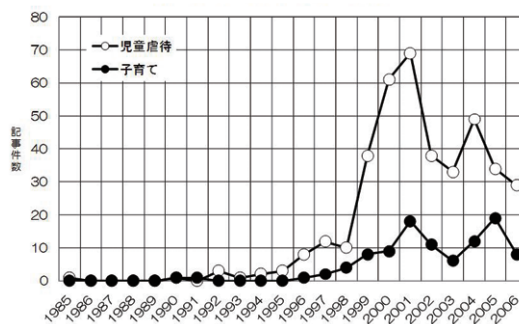


図 2 「児童虐待」と「子育て」の出現頻度

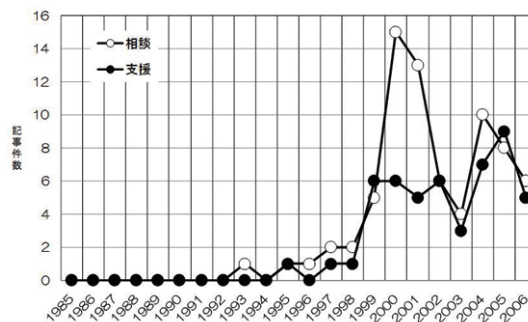


図 3 「相談」と「支援」の出現頻度

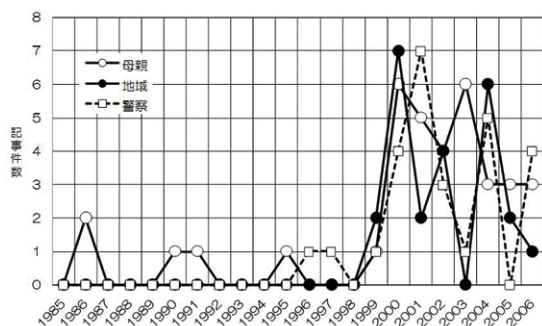


図4 「母親」「地域」「警察」の出現頻度

### 3) 見出しに付記された地名の年次別出現頻度

年次別に見出しに付記された地名の出現頻度を表3に示した。見出しに付記される地名は記事のリソースを表しており、大阪がもっとも多く、次いで、愛知、京都、栃木、東京と続いている。栃木では2004年、小山市で起きた幼い兄弟の虐待死亡事件が市民のこころを刷り、これを機に全国的に市民グループが中心になって、虐待防止を訴える「オレンジリボン・キャンペーン」が展開されている(表3)。

### 4) 1997年～2006年における虐待事件に関する記事本文の分析(表4、図5)

虐待に関する記事件数は1997年から急速に増加しており、1997年から2006年までは、虐待事件報道のみに焦点を絞り、分析を行った。

キーワード出現数30以上のキーワードを年次別にリストアップすると、表4のとおりである。これは1997年から2006年における検索語「児童虐待」を含む記事の中から、虐待の事件報道に関する記事を選択し、そのキーワードを抽出したものである。全サンプル数(新聞事件報道記事数258)のうちそのキーワードを含むサンプル数(記事数)を意味する。図5で示したキーワードは子ども虐待と密接な関係のあるもので、「死亡」「通報」「暴行」「放置」とも年次別出現パターンは同一であった。すなわち、1997年頃より出現頻度が次第に増加し、2000年から2001年にかけてピークを示し、その後いったん下降傾向を示すが、2004年に急激に増加し最大のピークに達するというパターンを示していた。2000年は「児童虐待防止法」が議員立法により制定されており、子ども虐待が大きな社会問題になったことを表していた。

次いで、司法の関与を表す「警察」「逮捕」「起訴」「罪」の年次別出現数の推移を見てみた。これらのキーワードは1999年から増加し始め、2003年でいったん減少するが、同様に2004年でピークを示していた。

虐待行為を表しているキーワード「暴行」「餓死」「あざ」「けが」「ネグレクト」では、「暴行」は1999年より出現数が増加し、2001年から2003年で一時平坦になり、2004年で大きく増加するというパターンを示した。「餓死」は1999年より増加し始め、その後年次による変動は大きい、「ネグレクト」と類似した年次別変動を見せていた。「あざ」は「暴行」と類似した年次別変動パターンを示していた。

「子育て」「一時保護」「訪問」「地域」で表される虐待の早期発見のための取り組みを表すキーワードの

表3 年次別見出し記事に付与された地名の出現頻度

見出し地名	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	行和
大阪	1	1	5	7	6	11	20	31	16	14	61	35	27	253
愛知	1	4	2	8	6	9	26	34	25	14	30	29	28	227
京都	2	2	1	4	8	16	19	23	23	11	25	17	41	194
栃木	2	3	1	0	0	14	6	8	5	2	34	21	8	104
東京	0	1	1	2	2	3	6	25	26	8	19	2	3	100
滋賀	0	0	0	3	1	1	13	15	17	12	13	3	0	78
神奈川	3	1	2	6	4	3	16	18	8	3	7	3	0	74
埼玉	0	1	0	0	0	3	13	9	8	6	6	8	11	65
静岡	1	0	0	3	1	2	14	15	3	1	5	8	0	53
群馬	0	1	1	3	3	2	5	5	5	2	8	4	13	52
三重	0	0	0	2	6	4	7	10	6	4	9	4	0	52
佐賀	0	0	0	0	1	3	9	15	7	7	7	3	0	52
福島	0	0	0	3	1	6	4	9	6	2	3	5	13	52
北海道	0	0	0	0	1	5	7	13	5	6	5	3	6	51
和歌山	0	0	0	0	2	2	11	15	2	3	9	5	2	51
香川	0	0	0	4	6	5	9	6	7	6	2	4	0	49
奈良	0	0	0	1	0	4	7	8	6	4	11	3	2	47
千葉	1	0	0	2	0	3	6	11	5	7	7	5	0	47
鹿児島	0	0	0	0	0	1	2	7	12	8	9	6	0	45
兵庫	0	0	1	1	1	0	3	16	5	5	8	2	0	44
福岡	0	0	4	2	1	3	12	4	4	3	4	7	0	44
宮城	1	0	0	1	1	8	11	6	5	1	6	2	0	42
大分	0	0	0	0	1	0	10	5	4	11	6	3	1	41
熊本	0	0	0	1	1	3	9	5	3	6	8	1	0	37
宮崎	0	0	0	3	4	2	3	2	4	5	10	2	0	35
山形	0	0	0	0	0	0	14	4	3	6	7	0	0	34
茨城	0	1	0	1	0	3	5	9	3	0	6	6	0	34
岡山	0	0	2	0	1	1	3	5	4	9	8	0	0	33
鳥取	0	0	0	1	0	4	10	6	1	2	7	1	0	32
高知	0	0	0	2	0	3	7	8	2	2	5	2	0	31
富山	0	0	0	0	0	7	5	6	3	2	6	1	0	30
秋田	0	0	0	0	1	3	6	8	3	2	5	1	1	30
山口	0	0	0	1	2	2	3	5	5	5	5	1	0	29
岩手	0	0	0	0	2	2	1	11	8	0	4	1	0	29
長崎	0	0	0	2	0	1	1	10	5	5	3	1	0	28
山梨	0	0	0	0	1	2	9	4	3	2	6	1	0	28
広島	1	0	0	1	0	1	5	4	5	1	5	3	2	28
長野	0	0	0	1	10	1	6	2	5	0	6	5	0	27
石川	0	0	0	0	2	0	3	10	3	4	5	1	0	26
徳島	0	0	0	0	0	0	2	3	0	2	9	6	0	24
鳥根	0	0	0	0	0	3	2	2	1	2	11	2	0	23
新潟	0	0	0	0	0	2	3	8	3	2	2	0	1	21
岐阜	0	0	0	1	2	1	4	5	2	1	2	2	0	20
列和	23	51	70	165	142	340	731	899	590	418	810	563	406	5336

解析対象とするクロス表の基礎情報

〔解析対象とするサンプル数〕 2875

〔解析対象から除外されたサンプル数〕 465

表4 子ども虐待の事件記事における年次別キーワードの出現頻度

キーワード	行和	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
列和	2593	84	29	152	320	260	330	172	563	333	350
児童虐待	344	13	5	19	34	43	44	23	69	47	47
事件	160	1	1	6	19	17	17	14	35	25	25
児童相談所	138	4	3	9	14	12	14	9	34	15	24
死亡	114	4	3	6	16	14	18	10	18	15	10
逮捕	106	2	1	5	13	13	12	3	27	16	14
相談	94	3	1	6	11	10	7	8	21	16	11
通報	87	3	0	4	13	7	9	1	15	16	19
子育て	83	5	5	4	18	9	6	2	18	8	8
児童虐待防止法	68	0	0	0	12	4	8	7	19	9	9
暴行	68	0	0	4	7	8	8	8	16	8	9
食事	60	2	2	5	8	4	9	5	8	9	8
学校	59	4	0	4	7	3	5	1	15	11	9
保護	59	3	0	4	5	1	6	2	19	8	11
病院	58	5	0	5	7	7	6	6	6	8	8
近所	57	1	1	4	8	6	5	4	12	7	9
家庭	56	1	1	5	7	5	7	1	11	12	6
罪	54	2	1	2	6	12	9	7	8	5	2
暴力	53	2	0	4	3	4	6	6	15	5	8
連携	49	1	0	4	3	3	9	2	12	7	8
あざ	48	1	0	3	5	7	4	5	14	6	3
警察	48	2	0	4	2	2	7	1	17	7	6
ネグレクト	47	0	0	4	7	3	9	5	10	3	6
家族	47	3	1	3	2	11	4	3	10	4	6
放置	47	3	1	3	9	4	7	5	7	2	6
一時保護	44	1	0	1	5	3	3	2	17	7	5
医師	42	2	0	2	10	4	5	4	8	3	4
命	41	0	0	4	2	2	6	3	10	6	8
怠慢	40	1	0	5	7	3	10	3	85	0	3
けが	39	0	0	2	5	4	5	2	12	7	9
確認	38	0	0	3	6	0	6	0	12	6	5
餓死	37	0	0	1	9	2	8	2	4	3	8
傷害	37	1	1	3	3	6	7	2	5	5	4
養育	37	2	0	3	5	2	10	3	8	3	1
通告	36	1	0	0	6	1	3	3	11	6	5
検察側	35	1	1	2	3	6	10	5	4	1	2
訪問	35	1	0	2	6	2	5	1	7	4	7
心	34	5	0	3	2	2	4	1	10	4	3
起訴	32	1	0	1	8	7	3	1	8	0	3
小学校	31	1	0	1	3	2	4	2	7	4	7
地域	31	2	1	2	4	5	5	0	3	5	4

八 [解析対象とするサンプル数] 258

[解析対象から除外されたサンプル数] 10



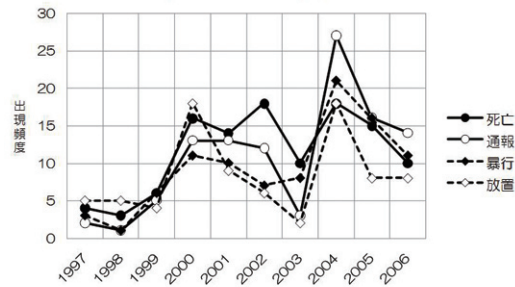


図5 「母親」「地域」「警察」の出現頻度

出現頻度を年次別にみると、「子育て」では2000年にピークを示し、その後減少し、2004年に再び大きなピークを示した。「一時保育」は1999年より増加し始め、2000年で小さなピークを示し、その後減少し、2004年で大きなピークに達するというパターンを示した。「訪問」も類似した年次別出現パターンを示していた。「地域」では年次変動はあるものの、ほぼ一定した年次別出現数を示していた。

##### 5) 抽出したキーワードのクラスター分類 (表5)

抽出したキーワードのクラスター分類を表5に示した。クラスター分析とは、一般に似ているものを集めて分類して、その中から意味のあるものを発見するという手法であり、クラスター1は、「あざ」「事件」「相談」「暴行」から構成されていた。これは【**身体的虐待の発覚**】に関係する語群と思われる。クラスター2は「家庭」「近所」「児童虐待」「児童相談所」「逮捕」から成り、【**虐待防止のための連携**】に関する記述を表していた。クラスター3は「暴力」「命」「連携」から成り、【**虐待により消えた命**】を表しており、連携が機能していない事実を浮き彫りにしていた。「命」の前後の記事本文の文脈をコンコダンス機能でみたものを表6に示したが、虐待により消えた命を表しており、「死亡」という客観的事実を表すキーワードに符合するものと思われた。そこで、「死亡」の記事本文の前後の文脈をコンコダンス機能でみると、すべて虐待による死亡で、日本全国の痛ましい死亡事件がリストアップされている。表7は件数が多いので、一部を割愛して掲載した。

クラスター4は「一時保護」「児童虐待防止法」「通告」から成り、【**法的緊急措置**】を表していた。「通告」の前後の文脈を表8に示した。クラスター5は「餓死」で【**虐待による餓死**】を表していた。「餓死」の前後の文脈を表9に示した。クラスター6は「けが」「小学校」「通報」「訪問」から成り、【**虐待の疑いと確認**】と解釈される。「訪問」の前後の文脈を表10に示した。

クラスター7は「学校」「警察」「保護」で【**学校での対応の重要性と保護**】を表していると思われる。「学校」の前後の文脈を表11に示した。クラスター8は「心」で【**虐待により傷つけられた心**】を表していた。「心」の前後の文脈を表12に示した。

クラスター9は【**子育て**】、キーワード「子育て」の前後の文脈を表13に示した。クラスター10は「ネグレクト」「怠慢」「養育」から成り、【**養育の放棄**】を意味していた。クラスター11は「医師」「病院」「放置」

から成り、【医療機関の義務と医療ネグレクト】を表していた。「医師」および「放置」の前後の文脈を表14、表15に示した。クラスター12は「死亡」「傷害」「食事」「地域」から成り、【(傷害やネグレクトによる)虐待死と地域の機能】を表しており、表16に「地域」の前後の文脈を示した。クラスター13は【家族】、クラスター14は【起訴】、クラスター15は「検察側」「罪」から成り、【検察による論告と罪状】を表していた。キーワード「検察側」の前後の文脈を表17に示した。

次に、年次別に各クラスターの出現率を表18、表19にまとめた。これによると、クラスター1（【身体的虐待の発覚】）は2004年でもっとも多く、クラスター2（【虐待防止のための連携】）も2004年でもっとも多く、次いで2002年、2005年、2006年で多かった。クラスター3（【虐待により消えた命】）は2004年、クラスター4（【法的緊急措置】）は2004年と2000年で多く、クラスター5（【虐待による餓死】）は2000年と2002年で多かった。クラスター6（【虐待の疑いと確認】）は2006年でもっとも多く、次いで2000年と2004年で多かった。クラスター7（【学校での対応の重要性と保護】）は2004年でもっとも多く、クラスター8（【虐待により傷つけられた心】）は2004年でもっとも多く、クラスター9（【子育て】）は2000年と2004年で多く、クラスター10（【養育の放棄】）は2004年でもっとも多く、次いで2000年で多かった。クラスター11（【医療機関の義務と医療ネグレクト】）は2000年でもっとも多く、次いで2004年で多かった。クラスター12（【虐待死と地域の機能】）は2000年、2002年、2004年、2005年で多かった。クラスター13（【家族】）は2004年でもっとも多く、クラスター14（【起訴】）は2000年、2001年、2004年で多かった。クラスター15（【検察による論告と罪状】）は2001年と2002年で多く、次いで2003年で多かった。

図6に各クラスターと年次の同時布置図を表示した。これによると、クラスター5（【虐待による餓死】）とクラスター10（【養育の放棄】）と「2003年」は近い位置にある。クラスター3（【虐待により消えた命】）、クラスター4（【法的緊急措置】）とクラスター1（【身体的虐待の発覚】）も近い位置にある。クラスター6（【虐待の疑いと確認】）は「2004年」や「2006年」に近い位置にあり、クラスター11（【医療機関の義務と医療ネグレクト】）とクラスター14（【起訴】）と「2001年」が類似した位置に布置された。クラスター2（【虐待防止のための連携】）とクラスター12（【虐待死と地域の機能】）が近い位置に布置された。クラスター3（【虐待により消えた命】）とクラスター4（【法的緊急措置】）も近い位置に布置されている。クラスター9（【子育て】）とクラスター13（【家族】）も近い位置に布置された。

表5 抽出したキーワードのクラスター分類

	構成要素 クラスター 01 クラスター サイズ 4	構成要素 クラスター 02 クラスター サイズ 5	構成要素 クラスター 03 クラスター サイズ 3	構成要素 クラスター 04 クラスター サイズ 3	構成要素 クラスター 05 クラスター サイズ 1	構成要素 クラスター 06 クラスター サイズ 4	構成要素 クラスター 07 クラスター サイズ 3	構成要素 クラスター 08 クラスター サイズ 1	構成要素 クラスター 09 クラスター サイズ 1	構成要素 クラスター 10 クラスター サイズ 3	構成要素 クラスター 11 クラスター サイズ 3	構成要素 クラスター 12 クラスター サイズ 4	構成要素 クラスター 13 クラスター サイズ 1	構成要素 クラスター 14 クラスター サイズ 1	構成要素 クラスター 15 クラスター サイズ 2
1	あざ	家庭	暴力	一時保護	餓死	けが	学校	心	子育て	ネグレクト	医師	死亡	家族	起訴	検察側
2	事件	近所	命	児童虐待 防止法		小学校	警察			怠慢	病院	傷害			罪
3	相談	児童虐待	連携	通告		通報	保護			養育	放置	食事			
4	暴行	児童 相談所				訪問						地域			
5		逮捕													

●解析対象とするクロス表の基礎情報

- [ユーザーが指定した課題名] 多次元データ解析の条件 (その 75)
- [解析対象とするサンプル数] 258
- [解析対象から除外されたサンプル数] 10
- [解析対象とする構成要素変数名(表側)] 本文キーワード-編集最新分析用
- [解析対象とする異なり構成要素数] 39
- [解析対象とする総構成要素数] 2555
- [解析対象とする質的変数名(表側)] 発行年-質的変数
- [解析対象とするカテゴリー数] 10

●対応分析の処理条件と結果

- [指定した成分数(成分軸の数)] 19
- [総変動(固有値の総和)] 10.1

●クラスター化共通の処理条件と結果

- [クラスター化で用いる成分数] 9
- [必要とするクラスター数の範囲の指定] 6 ~ 16

●個別クラスターの処理条件と結果

- [クラスター数] 15
- [クラスター内変動の総和] 0.0
- [クラスター間変動] 0.1
- [クラスターの総変動] 0.1

表6 キーワード「命」の前後の文脈（一部）

番号	左の語列	検索語	右の語列
14	母者はそれぞれ二百十四人、百九十二人だ。大まかにいって、子どもが	命	を奪われる事件の約半分は、親や養育者が加害者とみられるのだ。児童
17	であるとはいえ、『親＝絶対』という考えは適用しない。行政が専門ス	命	じていたのに、外で遊んでいたからカットになって殴った」。傷害致死容疑
17	であるとはいえ、『親＝絶対』という考えは適用しない。行政が専門ス	命	の尊厳に対し、親たち大人の側の認識が希薄すぎる」と、3つの事件の共通
19	こげて子供たちには説明しづらい。それに、私たちにとっても、あまり	命	を守るための対策を練ってきた。八月には各児童相談所や教育関係者、福
21	かった。だが自然に涙が出てきた。母は、カオリに一日三回の掃除を	命	じていた。泣きながら掃除を続け、何げなく後頭部に触れると、赤くぬめ
24	らは体液が流れ出ていた。父母と次女のほか、次男（当時二三）、長	命	のバランスをとろうとした結果だろうが、「命が何よりも重い」という視
24	らは体液が流れ出ていた。父母と次女のほか、次男（当時二三）、長	命	が何よりも重い」という視点に立つべきだった。
25	つくと骨折もしていた。「私たち二人は素直になってほしいと一生懸	命	、愛情を注いだつもりだったんですけど」法廷で、母親は涙をみせた。
34	てきてくれて私と一緒にする」と母親をかばった。相談員は一生懸	命	に伝えた。「心配なので来た。お母さんがしっかり生活できるようにな
40	愛知県藤岡町で十月十六日、小学五年生の男の子が	命	を閉じた。裸の体を荷造り用の粘着テープでぐるぐる巻きにされ、自宅の
40	は、ふだんから子どもを虐待していたわけではない。三人の子どもを懸	命	に育てていた。それなのに、わが子を死なせてしまった。夫や義母との
43	う。逮捕に踏み切ったことについて、同署は「放っておく子どもの	命	にかかわると判断した」としている。厚生省によると、全国百七十四カ
51	保護者たちは児童相談所と小学校に保護を求めた。児童相談所は「生	命	に危害が及ぶなど、緊急の保護が必要なケースにはあたらな
57	わず、通報を」泣き声・物音、周囲の目や耳が力 これ以上、子どもの	命	を犠牲にしないために、どうしたらいいのか。県児童相談所の専門家や虐
81	事件が起こったのは残念」と話し、虐待防止の緊急会議を開く考えを示	命	の危機があり得るので、念のため、点滴をして脱水症状が起きないように
92	また、幼い	命	が失われた。亡くなった原友樹ちゃん（3）は肝臓の一部がつかれて肺や
102	今回の虐待死事件では、児童相談所など公的機関がかかわりながら幼い	命	を救えなかった。厚生労働省や警察庁によると、〇1年の児童虐待事件
105	り、やがて細った依織ちゃんを見て「そろそろやばいんじゃない」「（	命	が）よう、もつね」と話し合ったりしたことなどから「共謀は明らか」と
109	また一人、児童虐待で幼い	命	が消えた。鹿児島市で21日夜起きた今給黎いんちゃん（2）の殺害事
109	ざは数日前に暴力を受けたことの証しだ。そう直感した。医師団が懸	命	に、れいなちゃんに胸部マッサージを施すうち、血のたまった腹部が大
111	が腹生した当時は、ともに18歳だった。逮捕から半年余りたった昨	命	を奪う最悪の事態を引き起こしたことで、行政など関係者らにも衝撃を与
112	くように泣いているの耳元を覗いて、「やばいんじゃない」「（	命	が）よく、もつね」と会話を交わしており、「暗黙の共謀による殺人罪が
119	名古屋市の勇樹ちゃんが出血性ショックで4歳の	命	を閉じたのは10月19日のことだ。「18歳の男子高校生が30分もの
119	なっている。警察庁のまとめでは、今年6月までの半年間で24人の	命	が児童虐待によって奪われた。県と政令指定都市が設ける児童相談所は全
126	なぜ、小さな	命	を救えなかったのか――。彦根市平田町の松下裕平ちゃん（4）が両親と
127	。そんな時、スタッフの臨床心理士が、こうした問題に詳しい弁護士	命	を脅かす状態ではなかった。同僚から「今の状態で治療の停止を医師から
129	傍聴したれいなちゃんの実父（27）は閉廷後、「腹立らない。人	命	を奪ったにしては軽すぎる判決」と唇をかんだ。◇「育児ストレス、男
132	恭一君にぬいぐるみや花を贈り、手紙を書いていた事実も明らかにさ	命	の重みがたった懲役8年なのか」と話した。4カ月間を過ごした児童養
135	つかれたような跡が、昨年9月に顔に傷があったが、「きょうだい	命	を落とした。
137	という。川口容疑者は兄弟に「起きてもよいと言うまで起きるな」と	命	じ、授業開始時刻を過ぎてから起床を認めることもしばしばだった。向
138	かく準備された手立てを生かすことができなかったが、子どもたちの	命	を救うため、制度をさらに強化することも必要だ。防止法は児童相談所の
146	なかったケースもある。職員の見解は重要だ。最悪の場合、子どもの	命	にかかわったり、親との接し方で虐待が改善されたり悪化したりするが
154	りほかに脳に重い障害を抱えた双子の長男（6）がいた。なぜ、小さな	命	を奪ったのか。親類や近所の人たちに、悲鳴は届かなかったのか。大阪府
155	き、児童相談所に通報して発覚した。児童相談所は「通報が子ども	命	を救う。学校だけでなく、親族や近所など、虐待に気づいたらすぐに連絡
159	半数が身体的虐待と肩を並べると、児童相談所など行政には改めて幼い	命	を救う態勢作りが求められている。起訴されたのは、父親の無職浅川達
161	見つけた。兄の一斗（かずと）ちゃん（4）はどこにいたのか。懸	命	の捜索が続く。（1面参照） 遺体発見現場は小山市の中央部を南北に流
161	り通った保育所の所長（55）は「2人は2人にも優しい子供で、一生懸	命	友達を作ろうとしていました」と語った。2人をよく知る主婦笠松たき
162	まときは親と対決して体を張ってでも、子どもを預かって育てるの使	命	だ」。そう言うのは経験豊かな相談員である。残念ながら、今回の事件
162	と法が施行された〇〇年末からの2年半で、127人の子が虐待事件で	命	を失った。そのうち、児童相談所が気づいていない死を防げなかったのが
163	話した。◇殺害容疑、再逮捕へ 栃木県警捜査本部は一斗ちゃん、集	命	傷となる外傷がなく、死因は車いすちゃん同様「不詳」とされた。調べ
169	たところ、児童千人あたり〇・7人の割合で虐待を受けており、「生	命	の危機あり」と判断された児童も36人いた。今回の事件のようなネグレ
171	く、保育ママさんやNPOなども含めて、子どもの居場所作りを一生懸	命	やっていく。◇私がキャスターをしていた80年代は、虐待のニュース
172	る抱えた奈良岡容疑者は、晶子さんが生まれた後の1984年に離婚	命	やるだけけれど、ダメだとしたら、まったく世話ができなくなる。どこ
180	回の公判は、2月1日に開かれる。〇「体に覚えさせよう」として、一般	命	は奪われたのか。県と県警は自らの対応を検証。県警は「対応は適切だ
184	暴力や児童虐待を始め、閉鎖された施設内での虐待は発見が遅れ、生	命	が奪われるなどの悲惨な結果が発生する危険性が大きい」として、一般
190	り核心」と述べ、主導的役割を認めた。一方、「監禁行為そのものが生	命	に危害を加えたとはいえない」として監禁致死罪の成立は認めず、監禁罪
191	れと長男を疎む気持ちによる犯行。実の親の自覚を喪失し、長男の生	命	の尊厳を踏みにじっており身勝手極まりない」として、懲役14年（求
192	びになっていたかもしれない。説得を試みているうちに失われかねない	命	があると思い知った」と言う。だが、ある関係者は「家庭へ進行突入す
194	り笑顔が二度と見られなくなってから。12日、1年が過ぎた。兄弟が	命	を絶たれた小山市の思川にかかる間中橋には、2人の冥福を祈る人々が市
194	レボジウムを開き、参加者50人が「児童虐待を防止し、子どもの生	命	と安全を守るための宣言」を採択した。（片桐圭子、五十嵐大介） 下山
202	時が始まり、でも自分が「かわいくない」のが悪いと思いつく、つい	命	を落とす「ぼく」。朗読会で読んだとき、会場でずり泣きが起き、参
205	名古屋市守山区で今年5月、また幼児が、親の暴力で	命	を落とした。周囲には、幸せそうな家族に映り、児童相談所なども面談を
207	が担当したという。〇〇年11月の児童虐待防止法の施行以降、名古	命	を落とした子どもは5年連続で計5人。今年度、虐待専門に対応する職員
215	など、事件になった虐待は昨年1年間に4件起きているという。幼い	命	を守るにはどうすればよいのか――。「子どもの顔にあざや腫れた跡が
223	って最も楽しい季節に、母親という誰よりも信頼する人の手によっ	命	を絶たれてしまった。殺人罪で起訴した徳島地検の幹部は、「限定的だが
226	自らの不満のほけに口にした」と指摘。「家庭内の児童虐待により幼い	命	が失われる事件が後を絶たず、再発を防止するために厳正な処罰が不可
237	過去3年間で、実に131人の子どものが、虐待で	命	を落とした。福島県虐待父の40年を追った。アンバランスさが見えて
241	ない」などの理由で相談所は介入しなかった。しかし、家の外に放り	命	のともしびを消さないために、虐待を巡る「命」を追った。
242	ことになったのか）分からない」と繰り返した。同センターは、男児が	命	にかかわる重篤な状態だったことから、すぐに奈良署へ通報した。森岡
242	をうかがわせる近隣からの通報や相談はなかったという。「密室」で	命	を消せなかったために、どうしたらいいのか。同センターの相談所長は「
253	に陥ったからだ。今年5月、福島県泉崎村で低栄養状態による肺炎で	命	を落とした白髪白ちゃん（当時3）の場合、福島県中央児童相談所が広
253	りだが、判断に甘さがあったかもしれない」〇かわかれなかった後傷	命	が失われ続けている。【写真説明】悲しい事件の舞台となった橋。事件
254	いたが、担当者間の引き継ぎや、虐待の事実確認がうまくいかず、幼い	命	を救う手立てにはならなかった。厚生労働省の調査によると、児童虐待
255	実の両親から浜川市のアパートで虐待を受けた末、3歳5カ月で	命	を落とした島内碧（へき）ちゃん。傷害致死罪に問われた両親に対する懲



表7 キーワード「死亡」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
4	いから、病院に行かなかったというのは表面的な理由」と考えるようにな	死亡	するまでシャツを1度替えたきりだった。母親は「医者に行こうか」と
10	小学六年生の次女（当時一）を医者にみせず、四カ月間放置して	死亡	させたとして、保護責任者遺棄致死の罪に問われている母親（五五）の精
12	平手で殴り、大曲署に傷害の疑いで逮捕された。長女は翌日、脳内出血で	死亡	した。「泣きやまない長女にカッとなって手が出た」と話す父親の男性は
15	横浜地裁であった。罪状認否で高崎被告は起訴事実を認めたが、弁護側は	死亡	との因果関係を争う方針だ。密室での出来事のため、児童虐待は実態が外
17	権があるとはいえ、『親＝絶対』という考えは適用しない。行政が専門ス	死亡	した。体重が平均の半分以下の4．6キロにまでやせ細っていた。死因は
19	し上げて子供たちに説明しづらい。それに、私たちににとっても、あまり	死亡	した事件で、千鶴ちゃんの死因は外傷性ショックだったことが、八日、司
24	の世話もせず、医者にも見せずに放置。同年十二月、栄養障害と敗血症で	死亡	させた。父母はともに、初公判で起訴事実を認めたが、弁護側は「母親
26	（関係記事）名古屋地検や愛知県警の調べでは、両容疑者は依織ちゃん	死亡	する前の約一週間、ほとんど食事を与えず、医師の治療を受けさせずに放
27	玄間1に靴が散乱して、破れたふすまからおもちが飛び出していた。■	死亡	の例も 厚生省のまとめでは、昨年度、全国の児童相談所に寄せられた虐
28	のいたずらをため、二人で相談して今年十一月中旬から、段ボール箱	死亡	させた母親など、今月だけでも虐待による子どもの受難が続いている。虐
29	ければ勾留（こうりゅう）期限前の二十八日も起訴する。依織ちゃんが	死亡	する前の約一週間、ほとんど食事を与えず、放置したことなどが殺人に当
32	ら一カ月もたない今月一日、赤ちゃんは硬膜下血腫などによる水頭症で	死亡	した。翌日、母親は傷害致死容疑で逮捕された。退院後も赤ちゃんをた
33	は高いとは言えない。名古屋市中八、九両日に開かれた「日本子どもの虐	死亡	させた。しつつけとっていたという ●2月4日 神奈川県大和市 無認可
36	歳の男の子が、母親（22）と同居していた男（29）から虐待を受けて	死亡	した事件で、傷害致死ほう助で起訴された母親の初公判を傍聴して思っ
37	責任者遺棄致死の疑いで逮捕された母親の谷川万里子容疑者（二一）が、	死亡	した依織ちゃん（三つ）は硬膜下血腫の後遺症で発育が遅れていると思
42	電王町玉川の県営玉川団地で二歳の男児が暴行を受け	死亡	した事件で、二十八日に傷害致死容疑で逮捕された母親の岡岡玉川、コン
44	わない」という「未必の故意」が両親にあったと、山形地検は判断した。	死亡	した米沢市窪田町窪田、太田優ちん（三つ）の両親で、会社員太田雅美
48	生後間もない長女を殴り	死亡	させたとして、傷害致死の罪に問われた三重県鈴鹿市寺家五丁目、会社員
57	交際相手の女性（22）の長男（1）をせっかんして	死亡	させたとして、富士宮市内の少年（19）が殺人の疑いで逮捕された事件
58	山本翔（かける）ちゃん（当時3）が家族から暴行を受けて	死亡	した、袖ヶ浦市の児童虐待事件の公判が千葉地裁で進んでいる。罪を問わ
61	行は6月上旬ごろには激しくなり、両容疑者が荷造り用のロープと手錠で	死亡	した杏実（あずみ）ちゃん（7）を自宅台所の冷蔵庫に縛り付け、4日間
65	三男、保育園児の直ちゃん（4）で、病院に運ばれたが、約1時間半後に	死亡	した。直ちゃんの顔には殴られたあとがあった。宮下さんと交際している
68	浦市の農村部での2月、両親（かける）ちゃん（3）が家族の虐待で	死亡	した事件で、千葉地検が27日、母親ら4人を起訴した。逮捕後の追及
77	月下旬ごろからは、依織ちゃんが極度にやせ細り、医師の治療がなければ	死亡	することを認識しながら、それもやむを得ないと決意。適切な処置をせず
78	相模原市で起きた。父親による長女虐待死容疑事件で、	死亡	した幼児が以前から虐待を受けていた疑いを把握していたのが県の児童相
82	数回打ち付けたり、腹をけったりして、脳性傷などによる呼吸中枢まひで	死亡	させたとされる。 検察側は「被告は無抵抗の子どもに対して、少なくとも
84	兵庫県尼崎市で昨年8月、小学1年の男児が両親の虐待で	死亡	したとされる事件で、兵庫県は18日、男児が入所していた児童養護施設
86	）に対する初公判が5日、高松地裁（高梨雅夫裁判長）であった。男児が	死亡	したことから、検察側が請求していた傷害致死罪への訴因変更を裁判所が
88	、保育園児の宮下直ちゃん（当時4）が母親の交際相手から虐待を受け	死亡	した事件で、傷害致死と暴行の罪に問われた横浜市青葉区の元会社員高橋
89	「授乳せずに衰弱死させた」として横山夫婦の逮捕に踏み切った。 県警は	死亡	当時、司法解剖した医師が「ネグレクト（養育の放棄、怠慢）の可能性が
92	変した23日、近くの熱田区の病院から大きな病院に救急車で転送され、	死亡	が確認された後、病院からの連絡で駆けつけた警署と原告容疑者が病院内
102	らつくしたまま。返事もなく、うなずきもしなかった。 ○防止法施行後、	死亡	した子6人超 今回の虐待死事件では、児童相談所など公的機関がかか
105	べき両親が我が子を餓死させた重大事件で、飢えと乾きに苦しみながら	死亡	した被害者の苦痛は想像を絶し、冷酷、非情な犯行だ」と指摘、両被告に
108	食事を減らしたという虐待。9カ月にわたる飢えの末に、女児は力尽き、	死亡	した。 餓死したのは、若菜ちゃん。田中容疑者の内縁の妻の次女だった。
113	宇都宮市で3日、3歳の女の子が里親の女に顔を殴られて	死亡	した。 県警によると、遺体には以前からのものとみられる多数のアザがあ
115	理由という。 ○県、訪問調査を開始 里子・養育家庭 宇都宮市で里子が	死亡	した事件を受けて、県は6日、県内の里子を養育する里親の家庭を訪問し
118	いる。 県こども家庭課は、所沢市で昨年10月、4歳の女児が栄養失調で	死亡	した虐待事件などを機に、今年度、児童虐待対策室を新設した。乳幼児の
121	務員西尾知江子被告（36）＝いずれも傷害致死罪で起訴＝による虐待で	死亡	したとされる事件から2カ月になる。事件の2年前から行政は、優香も
126	根市平田町の松下裕平ちゃん（4）が両親と祖母から虐待を受け、7日に	死亡	して1週間が過ぎた。5日夜に重たくなって救急車で病院へ運ばれたまで
128	生後3カ月の娘に布団をかけて	死亡	させたとして、傷害致死の罪に問われた唐津市ニタ子、無職佐野有佳子被
129	宅で内縁の妻の次女、今給黎れいなちゃんの腹を足でけり、約4時間後に	死亡	させた。9月9日夜には、自宅であれいなちゃんの腕にドライバーを押しあ
130	聴いたところ、虐待を認めたという。次女は同月25日、収容先の病院で	死亡	した。 大分地検などによると、鳴海被告の暴力がエスカレートしたのほ
131	失調で死亡し、両親が保護責任者遺棄致死容疑で5日逮捕された事件で、	死亡	した内置梨緒ちゃんは体重わずか8キロと、同年代の子どもに比べて可
132	殴ったり、布団たたきでたたいたりする暴行を断続的に加え、脳内出血で	死亡	させた。その後、遺体を粘着テープで縛ってポリ袋に入れ、同市意町6
135	からほかの子供たちが可愛くなくなった」。愛知県豊川市で6歳の女児が	死亡	した事件で、傷害致死容疑で逮捕された母親はこう供述した。再婚同士の
140	和歌山市で昨年8月、2歳の男児が虐待されて	死亡	した。6月まで男児は大阪府岸和田市に住み、虐待を知った児童相談所
142	傷害致死容疑で逮捕された。3年前にも四男（当時5カ月）が同じ死因で	死亡	しており、県中央児童相談所（上尾市上尾村）は「将来虐待の危険性があ
143	などの罪で起訴＝を知り合った。その後離婚した大迫被告は、雄起君（	死亡	当時12）の育児について相談するようになり、仕事で留守がちだった大
146	職員として福祉畑を歩んできた。 児童養護施設や乳児院には、保護者の	死亡	や病気、失踪（しっそう）などのほか、虐待を受けて家庭で過ごすことが
154	という。 3歳児健診時の愛里ちゃんの体重は約10キロだった。以後、	死亡	時まで体重が増えていないことから、府警は極端な食事制限などの虐待が
156	長崎県世保市で女児が刃物で切られて	死亡	した事件は、県内の教育関係者などにも衝撃を与えた。富山市内の小学校
159	宇都宮市内で昨年11月、生後4カ月の女児が	死亡	した事件で、宇都宮地検は21日、両親を保護責任者遺棄致死罪で宇都宮
163	」と話した。 ◇殺害容疑、再逮捕へ 栃木県警捜査本部は一斗ちゃん、隼	死亡	することは容易に予見できるはずで、殺意があったと判断した。 ◆相談
168	は、統計を取り始めた90年度から13年連続で増え続け、03年度には	死亡	
169	うかうきっかけがあったとみて調べている。 福生署の調べなどによると、	死亡	時に晶子さんの身長は10歳並みの140センチ、体重が3歳児並みの約
174	けた側の年齢は、3歳未満が15・8％、3歳以上就学前が31・7％と	死亡	事例を検討する仕組みづくりが急務だ。
175	法の判断に注目 今回のように、夫などからの暴力を阻止せずに子どもを	死亡	させた親を立件するケースは徐々にできてきているが、司法判断は必ずしも
183	母親が入浴をいやがった宏暉君にいらだち、浴槽の湯に顔を押しさえつて	死亡	させたのは、その20分後だった。翌朝、家族に起こされ、殺人容疑で
190	食を1日1食しか与えず、同年8月12日、栄養失調による急性肺水腫で	死亡	させた。体重は19キロだった。 判決は、長男の食事の世話などを頼っ
191	しう1日など口裏をあわせることを聞かされている。長男を放置すれば	死亡	すると認識していたと考えるのが自然」と認定し、両被告の共謀による犯
205	1カ月半余り。一行君は5月17日夜、瀧元容疑者に床に投げつけられ、	死亡	した。 殺人容疑で逮捕された滝元容疑者は「（一行君が）なつかなかっ
206	名古屋市守山区で4歳の男児が父親からの虐待で	死亡	した事件を受け、市児童福祉センターは30日、虐待の危険性の判断基準
207	不明の重体になった事件で、男児は19日午前0時すぎ、収容先の病院で	死亡	した。詳しい死因は司法解剖して調べる。事件発生日の約1時間前、同市

表 8 キーワード「通告」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
5	域の人も、子どもが危険な状態だとわかった時は、児童相談所などに	通告	する義務があることを理解してほしい」と指摘している。東京都や大阪
27	た夫婦も、近所づきあいがないとなく、餓死に至る二十日間、家に	通告	も義務づけられた。しかし、親が「親権」を盾に、「しつけや養育上の
31	に。十一月に施行された「児童虐待防止法」で、虐待を知った場合の	通告	が義務化された。育児はもはや親だけの問題ではない。「社会が子ども
33	トとは言えない。名古屋市で八、九両日に開かれた「日本子どもの虐	通告	義務があることを知らない医師は四六％もいた。広島市児童相談所の新
36	施行され、子どもにかかわる学校関係者や医師に、虐待の早期発見・	通告	を義務づけた。県内でも、各児童相談所間の情報の共有化を図り、民間
41	という言葉を口にするようになったのが原因だ。――九番通報で駆け	通告	し、拓哉君を欠席させた。兄を怖がる妹たちのことを考え、ペランダに
43	十六件を取り扱ったが、事件としての立件は四件で、児童相談所への	通告	にとどまるケースが大半だった。府警少年課は、児童虐待を防ぐには早
49	ている。県は、地域で虐待の可能性のある家庭などを児童相談所に	通告	する「インフォーマント（虐待を報告する人）」を配置している。だが、
72	人が目安とされている。昨年、児童虐待防止法が施行され、虐待の「	通告	義務」が決まり、相談数は増えているが、基準はそのままで、増員はほ
74	人が目安とされている。昨年、児童虐待防止法が施行され、虐待の「	通告	義務」が決まり、相談数は増えているが、基準はそのままで、増員はほ
92	り納付き通告」の措置はとらなかったという。センターは2月に妻と	通告	。児童福祉司が養父と面接、保健所の保健婦が立ち会い 3 0 日 児童相
95	がその機能を発揮するためには、早期に虐待を見つけて児童相談所に	通告	することが必要とされ、防止法は国民に通告義務を課している。今回の
104	加えてという。同署は児童虐待防止法に基づき土浦児童相談所に	通告	し、保護措置を要請した。2002
121	り所 県中央児童相談所は児童虐待防止法に基づき、市町村などからの	通告	を受けて、立ち入り調査などを行う権限を持つ。優香ちゃんのケースに
126	て、あゆ美容疑者に引き取られたが、その後、同センターへの相談は	通告	を義務づけている。特に病院、学校、司法関係者などには早期発見の努
130	2 3 %が実父だった。0 0 年に施行された児童虐待防止法で関係者に	通告	義務が課されたり、虐待への関心が高まったりしたこともあって、相談
132	森一君にぬいぐるみや花を贈り、手紙を書いていた事実も明らかにさ	通告	を義務づけられた。児童虐待問題に取り組む岩佐嘉彦弁護士は「ネグレ
136	がよくないと認められる子供を見つけた者に対し、児童相談所などに	通告	するよう義務づけている。また児童虐待防止法は教職員員について「児
140	会を逸した岸和田市の中学生虐待事件とは異なり、児童相談所が虐待	通告	を受けて調査しながら、判断を誤って子供を救えなかった事件だ。隠さ
150	で「児童虐待が行われていた」として、弁護士が同県北児童相談所に	通告	し、同相談所は8日までに、1歳から15歳までの子ども計5人を児童
155	したという。学校側は児童虐待と判断し、18日、周南児童相談所に	通告	した。2004
158	相談所が民生委員や教育機関との連携をより深めるワー一般住民から	通告	を受けた場合に速やかに調査し、対応するなどの方針を確認した。◇
161	部の公園でも手がかりはつかめなかった。○虐待対応見解対立「警	通告	。兄弟を引き渡した。兄弟は、同居していた下山容疑者からたたび暴
164	長は首を振り、話を続けた。児童相談所は7月8日、小山署からの	通告	で小林一斗（かずと）ちゃん（4）と隼人（はやと）ちゃん（3）の兄
168	統計を取り始めた90年度から13年連続で増え続け、03年度には	通告	義務の対象が「虐待を受けた児童」から「虐待を受けたと思われる児童
169	1件で、10年前の12・7倍だった。教師らの関係者に早期発見・	通告	を求めた児童虐待防止法の施行が影響しているが、都は「これ以外に相
178	に、虐待で兄弟が一時保護された事実について、県南児童相談所から	通告	を受けていたことが8日、市議会での市の答弁で明らかになった。市は
185	署に逮捕された。2人の子どもは母親から虐待され、医療機関からの	通告	を受けた県松本児童相談所が、定期的に親子と面接するなどの対応を取
197	止策について」と題して1時間以上にとわたり講演。全国の児童虐待の	通告	件数が93年の1600件から昨年の3万4千件に急増していることに
201	虐待対応を中心的に担う病院として指定した。診断・治療、児相への	通告	、連携などを積極的に進める。広島県独自の取り組みだ。基幹病院には
205	い」と説明する。○家庭訪問でもつかめず「このままではだめだ	通告	が寄せられた場合、児童福祉司や心理判定員などの調査や診断で子ども
207	日、一行君が通う保育園の園長から「左ほおにあざができています」と	通告	があった。保育士がけがの理由を尋ねると「おかあさんがやった」と答
208	くなくなった事件を受け、県は12日、全57市町村長あてに児童虐待の	通告	制度の周知を図るよう通知した。同時に、地域ぐるみで児童虐待の防止
211	を契機に04年4月に法改正され、虐待を受けた児童を発見した際の	通告	義務などが盛り込まれた。大阪府中央児童相談所の辻仁士・障害児相談
213	緯と県福祉相談センターとの主なやりとり>> ■04年1月26日 県	通告	。同センター職員2人で家庭訪問。「子育てに限界を感じる。次男を預
221	児童相談所が事実経過を報告し、市の保健師や保育園、病院が援助や	通告	をした経過を付け加えた。ホワイトボードにそれぞれの組織の課題を書
233	れた際、彩香さんが外に出されていた、カップめんばかり食べさせら	通告	の対象は「虐待を受けた児童」から「虐待を受けたと思われる児童」に
234	に彩香さんが外に出されていた、カップめんばかり食べさせられてい	通告	の対象は「虐待を受けた児童」から「虐待を受けたと思われる児童」に
246	から4回の通報があったにもかかわらず、児童虐待防止法に基づく「	通告	」と扱っていなかったことがわかった。3月に保護された長女（6）に
253	だが、判断に甘さがあったかもしれない」 ○かわれなかった後悔	通告	があったとき、市内のすべての子育て家庭について何らかの情報は持つ
258	4年の改正児童虐待防止法は、虐待があったとみられるだけで国民に	通告	を義務づけた。青柳次長は「『いつとも何か違う』というアンテナの感

表 9 キーワード「餓死」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
17	させてしまう事件が県内で相次いだ。母親に放置された一歳の女兒は	餓死	するなど、痛ましい事件ばかりだ。「児童虐待」について県内の児童相
26	愛知県武豊町のアパートで谷川依織ちゃん（三つ）が今月十日に	餓死	した事件で、名古屋地検は二十八日、父親の千秋（二）と母親の万里
27	愛知県武豊町の	餓死	事件は、両親が適切な養育をしない「ネグレクト」（養育の放棄・怠慢
28	二月十一日、愛知県武豊町で三歳の子どもを段ボール箱に閉じこめ、	餓死	させる事件が起きた。夫の谷川千秋容疑者と妻の万里子容疑者は二十
29	愛知県武豊町のアパートで谷川依織ちゃん（三つ）が	餓死	した事件で、名古屋地検は二十七日、父親の千秋（二）と母親の万里
30	腸内にも消化された食物が見つからなかったことが判明。少なくとも	餓死	する約一週間前から、食事を与えられていなかったことが裏付けられた
33	とは言えない。名古屋市で八、九両日に開かれた「日本子どもの虐	餓死	させた ※いずれも逮捕段階の容疑。日付は子どもの死亡した日。年齢
37	愛知県武豊町の女兒	餓死	事件で、保護責任者遺棄致死の疑いで逮捕された母親の谷川万里子容
38	の結末を防げなかったのはなぜか。愛知県武豊町の谷川依織ちゃんが	餓死	した事件で、依織ちゃんにかかわった同県の半田児童相談所と武豊町の
39	幼い我が子に長期間、ろくな食事も与えず	餓死	させた若い夫婦が保護責任者遺棄致死の疑いで十一日、愛知県警に逮捕
75	町で昨年十二月、自宅アパートで長女（当時三つ）に食事を与えず、	餓死	させたとして、殺人の罪に問われている父親の元会社員谷川千秋被告
77	町で昨年十二月、自宅アパートで長女（当時三つ）に食事を与えず、	餓死	させたとして、殺人の罪に問われている父親の会社員谷川千秋被告（二
81	病院へ転送した救急隊員が町保健センターに連絡した。同町は、幼児	餓死	事件を教訓に、虐待防止検討会を設け、児童虐待の早期発見に努めてき
90	213件、99年度3441件だったのに対し、00年度は6318	餓死	」と報じられる。○「育児書めくっても子どもがかわいいと思えずつ
101	渡しは9月3日。検察側は「自己の犯行の発覚を免れつつ、長男の	餓死	を待ち望んでいたとしか見えない極めて陰湿な犯行で、肉体的・精神的
105	谷川依織ちゃん（当時3）が長期間自宅で段ボールに閉じこめられて	餓死	した事件で、殺人罪に問われた父親の千秋被告（22）と母親の万里子
106	谷川依織ちゃん（当時3）が長期間自宅で段ボールに閉じこめられて	餓死	した事件で、殺人罪に問われた父親の千秋被告（23）、母親の万里子
108	いう虐待。9カ月にわたる飢えの末に、女兒は力尽き、死亡した。	餓死	したのは、若菜ちゃん。田中容疑者の内縁の妻の次女だった。所沢署は
110	愛知県武豊町で00年12月に起きた女兒	餓死	事件で、殺人罪に問われた父親の元会社員谷川千秋被告（23）と母親
111	育を放棄した行為を裁判所は「殺人」と認定した。当時3歳の長女を	餓死	に追いやったとされる若い夫婦に、実刑が言い渡された。30日の名古屋
112	歳の女兒が長期間にわたり、自宅で段ボール箱に閉じこめられたまま	餓死	した事件で、いずれも殺人罪に問われた父親の谷川千秋（23）、母親
120	町で00年12月、長女（当時3）を段ボール箱に閉じこめたうえに	餓死	させた事件で、殺人の罪に問われ、一審でそれぞれ懲役7年の判決を受
124	豊町で00年12月、3歳（当時）の長女を段ボール箱に閉じこめて	餓死	させたとして、殺人罪に問われた元会社員の谷川千秋（23）と妻の万
136	以上の措置はとれませんでした」と記者会見で説明した。岸和田子	餓死	させたとして、両親が殺人罪で起訴された。昨年11月には、岡山県玉
149	0年12月、両親が長女（当時3）を段ボール箱に閉じこめたうえに	餓死	させた事件で、最高裁第一小法廷（甲斐田辰夫裁判長）は、殺人罪に問
169	東京都羽村市で16歳の少女が	餓死	するまで放置され、母親の奈良岡恒子容疑者（47）が保護責任者遺棄
172	東京都羽村市で起きた16歳少女	餓死	事件―。亡くなった奈良岡晶子さんの身長は140センチ、体重は1
187	く、虐待情報がないまま立ち入り調査することはほとんど想定され	餓死	寸前で見つかった事件以降。同室は「今回は難しい事例で、立ち入り調
191	自宅に当時中学3年の長男（17）を1年以上にわたって閉じこめ、	餓死	寸前まで追い込んだとして、殺人未遂罪に問われた父親と内妻のうち、
192	年11月にかけて、殴ったり食事を与えなかったりする虐待を加えて	餓死	寸前に追い込んだとして、殺人未遂容疑で逮捕。少年に対する虐待の疑
228	岸和田市の自宅に当時中学3年の長男（17）を1年以上閉じこめ、	餓死	寸前に追い込んだ虐待事件で、殺人未遂罪に問われた父親の鳥野康信
237	崎村の妻の元にやってきたのだという。「まあ、一緒に住めない	餓死	事件を取材し『ネグレクト』を著した杉山春さんは、「バランスの悪さ
245	岡京市の佐々木拓夢ちゃん（3）が父親と同居の女から虐待を受けて	餓死	した事件を受け、府保健福祉部は23日、府庁で府内3児童相談所長や
246	京都府長岡京市の佐々木拓夢（たくむ）ちゃん（3）が	餓死	した虐待事件で、京都府児童相談所が民生委員から4回の通報があった
249	長岡京市の佐々木拓夢ちゃん（3）が	餓死	した虐待事件で、厚生労働省は27日、地域住民から虐待を疑う声が上が
250	長岡京市の佐々木拓夢（たくむ）ちゃん（3）が父らに虐待されて	餓死	した事件を受けて30日、悲惨な事件が起きないよう対策を協議する同
251	長岡京市の佐々木拓夢（たくむ）ちゃん（3）が父親からの虐待で	餓死	した事件を受け、衆議院の「青少年問題に関する特別委員会」の委員
252	長岡京市の佐々木拓夢（たくむ）ちゃん（3）が父らからの虐待で	餓死	したとされる事件を受け、同市議会の文教厚生常任委員会が8日、開か
253	姉に対する父親の虐待を把握していた。10月に京都府長岡京市で	餓死	した佐々木拓夢ちゃん（3）の場合も、京都府京都府児童相談所が拓夢



表 10 キーワード「訪問」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
5	った。児童福祉司が数回、家に足を運んだ。しかし、母親の姿勢は先生が	訪問	した時と同じ。少女が放置された四カ月の間、親族以外で、家に入っ
17	権があるとはえ、『親＝絶対』という考えは通用しない。行政が専門ス	訪問	や立ち入りなどをして、幼児と親の双方を積極的にケアすることが必要に
22	った。キミエ＝四十代、仮名＝は、子どもたちと黙って家にいた。家庭	訪問	すると、家の中はいつ掃除したのかわからない状態だ。汚れ物が山積みで
23	捜査員は繰り返した。◆「福祉はいらない。関係ない」。ある家庭相談	訪問	先の家庭で拒否された。きちんと育てているか懸念される「ネグレクト
32	は電話をかけていた。でも、つかまらなかったという。一度は約束なしで	訪問	し、留守番の親せきに赤ちゃんの状態をみせてもらった。ミルクを飲んで
32	届の提出遅れ」「経済的基盤が弱い」などの困難を抱える妊婦を保健婦が	訪問	する。その数は年に約百人になる。さらに、出生から一カ月以内に家庭
37	結ばれた若い夫婦は、だれにも相談できないまま、子育ての悩みを抱え込	訪問	した際、依織ちゃんの様子を尋ねると、「下の子が生まれたら、歩いてい
37	結ばれた若い夫婦は、だれにも相談できないまま、子育ての悩みを抱え込	訪問	母親「(依織ちゃん)歩けなくなり、ハイハイだけで動くようになって
38	あった三歳児健診にも来なかった。気になった保健婦は十一月中に何度か	訪問	したが留守で、電話も通じず、連絡が途絶えた。だが保健センターはこ
39	時間近く家を空けていた。愛知県豊田町保健センターは「何十回も自宅を	訪問	したが、両親に拒否され、助言を聞き入れてもらえなかった」。依織ちゃ
39	くなっていた。九月半ばから十月初めにかけて、万里子容疑者は、自宅を	訪問	したセンターの職員に「依織もだいが元気になった。来年度からは保育園
43	で「子どもの泣き声がある」との連絡が市中央児童相談所にあり、職員が	訪問	して調べたところ、双子の顔やしりなどにあざが残っていたことから同月
50	不安な母親に安心感を与えてくれる。行政も、母親学級や保健婦の家庭	訪問	、広報による育児相談などを設けている。だが、追いつめられ孤立しなが
61	、「専門家」は純感だった。杏実ちゃんが通っていた宝南小では、家庭	訪問	を繰り返したが、母親の不快そうな様子に踏み込んだ対応をしなかった。
62	また関係者によると、唱子容疑者は５月ごろ、杏実ちゃんが間違って書	訪問	した際も、ドアのノックにも反応せず、後日学校に強く抗議した。その後
78	どの介入が必要なほどの緊急性はないと判断、児童相談所として直接自宅	訪問	することなく、市の保健婦に任せていた。これが第一の問題点だ。次の
78	と説明、両者に食い違いがある。結果として、市福祉事務所も直接自宅	訪問	などもせず、事実上保育園任せにしていた。◇ 相模原署は九日、小沼君
80	県警の説明によると、今回の事件では、金沢中署の署員が４度にわたって	訪問	していたにもかかわらず、虐待を確認できなかったという。文教公安課
92	「身柄付き通告」の措置はとらなかったという。センターは２月に妻と	訪問	と３歳児健診で親子の状況を把握する方針を選択したが、家庭訪問に不在
92	「身柄付き通告」の措置はとらなかったという。センターは２月に妻と	訪問	は不在で会えなかった。一方で、健診では、友樹ちゃんの体に傷はなく、
96	いるという。それだけに今回の事件はショックが大きい。自らも何度も	訪問	した関和枝センター長は「家族から『元氣です』『変わりないです』と言
103	学を卒業した。３年間で３日しか登校せず、担任が２、３カ月に１回家	訪問	をしていた。だが、不登校児への圧力にならないよう、「無理に登校しな
108	日、県所沢児童相談所や県所沢保健所、所沢市福祉事務所、市保健センタ	訪問	できるような方策を検討しなければならい」と話した。県のためには
109	った。センターの中原裕所長は「緊急性がないと判断してしまっ。直接	訪問	しなかったことを反省している。他機関との連携をもっと深めるべきだっ
109	をもっと深めるべきだ」と話す。児童虐待問題に詳しい日本社会事	訪問	。「一家と一度も接触できない」と児童家庭相談員に報告。相談員から同
113	強いという。里親の窓口になった県中央児童相談所は死亡の２日前に家庭	訪問	をしたが、異変には気づけなかったという。死亡したのは大沼順子ちゃ
113	の養育状況は県中央児童相談所が把握することになっていたが、直接家庭	訪問	をしたのは２回だけで、それ以外は電話で近況を聞くのが主だったという
118	童福祉課は、市の派遣する保健婦が１月２１日、岡本容疑者宅を新生児	訪問	で訪れ、母親と１時間ほど話したが、変わった様子にはなかったという
119	。四つの事件のうち三つは虐待の事実を知った児童相談所の職員が家庭	訪問	をしたり、子どもを一時保護したりしていた。専門機関がかわっていな
121	には仲よく遊んでいた」「虐待なんて考えられない」と口をそろえた。○	訪問	は１２回 優香ちゃんは０１年４月に佐倉市内の私立保育園に入園。同年
121	は、優香ちゃんが転園した市立保育園を含め、約２年間に１２回保育園を	訪問	し、計２０回以上の報告を受けていた。優香ちゃんには「おふちとした
130	らどなかった。生活保護を受けていたためケースワーカーが１２月に自宅	訪問	したが、子どもには会っておらず、近所の人にも泣き声などを聞いたことは
135	いなかった。しかし、退園後、当時の担任が昨年７月と１０月に自宅を	訪問	した際、純那ちゃんが別の保育園に通っていなかったため、園側も気にな
136	たきりになり、中学校には１年以上も通っていないかった。担任教諭は家庭	訪問	を繰り返したが、親に拒まれて面会さえできず、児童相談所は事実の確認
136	談。０３年４月には教諭が「親による虐待の疑いがある」と同センターを	訪問	した。しかし、対応した同センターの担当者はその情報を虐待の担当者
138	としている。学校は、長男が登校しなくなった一昨年の１０月以降、家庭	訪問	を繰り返したが、夫婦から面会を拒否された。虐待を疑った学校は児童相
140	た虐待は１週間で再開した。センター側は６月に入り、３回連続して家庭	訪問	で元気ちゃんに会えなかった。「実家に預けた」「熱を出している」など
140	い」などと嶋村被告は説明したが、実際は虐待を隠すために伊田被告が	訪問	日に元気ちゃんを外に連れ出したとされる。ケースワーカーがやぶと元
142	(上尾市上尾村)は「将来虐待の危険性がある」として畑笠容疑者宅への	訪問	を行っていた。県警は、数年前から国内でも注目され始めた「揺さぶ元
142	者を当時の状況聞き、指導した。その後は職員らが月２回以上家庭を	訪問	し、子供に外傷がないか、親を怖がっていないかなどを観察し、上尾市職
143	が「専門のカウンセラーに診てもらっているが、その名前はい言えない」「	訪問	を受けると症状がひどくなる」と川口被告に断られた。学校側が雄起君
143	。学校側が雄起君の姿を確認できたのは、休み始めた当初に担任が家庭	訪問	した際と、０１年１０月にベランダにいる姿を見た２回だけだった。魚
152	虐待の可能性がある」という情報があった。相談所職員は定期的に自宅を	訪問	していたが、「証拠がない」（同相談所）として、保護には踏み切ってい
154	まづけり推進課は「障害児を育てる家庭には必要に応じて保健師が家庭	訪問	をするが、基本的には保護者からの要請に基づく」と説明する。同センタ
159	る」（県中央児童相談所）として、一時保護しなかった。市の職員が家庭	訪問	しても、両容疑者と全く接触できなかったという。児童相談所の判断は
160	っかけに、下山容疑者宅に同居したと見られる。下山容疑者も離婚して子	訪問	しなかったのは、父親が後輩の下山容疑者に対し強い立場で、発言力があ
160	っかけに、下山容疑者宅に同居したと見られる。下山容疑者も離婚して子	訪問	などで確認すべきではなかったか？ 若林所長「父親の言い分と態度だけ
163	のアパートに戻ったことを祖母への電話で知った。しかし、アパートには	訪問	しなかった。事件直前の今月６日にも、祖母から下山容疑者が再び兄弟を
168	ら子どもを保護しなかった。虐待を深刻とはとらず、市の担当課が家庭	訪問	を試みたのも通報から２カ月後。事件の３日前にようやく長男に会い、顔
168	いて触れることはしなかったという。高石市の子育て支援課が最初に家庭	訪問	を試みたのは９月３日。同課は１２人のスタッフがいる家庭児童相談員
182	課が２月に母子連絡会議を設け、毎月１回、情報交換している。保健師の	訪問	診断を、年２回から必要に応じて増やすようにもした。出雲市の事件で
187	母親は民生委員に「親類の家に預けている」と説明。学校関係者の定期	訪問	は、面会を断られ続けた。●８年前に通報 近所の主婦（５６）は８年
187	きると定めている。子どもの姿が長期間確認できず、保護者が関係機関の	訪問	に応じない時も適用できるとしている。調査権限を持つ福岡市こども総合
205	れた感情が爆発。虐待に至ってしまうことが多い」と説明する。○家庭	訪問	でもつかめず「このままではだめだ。積極的に介入する姿勢を示さなけ
205	が多い」と説明する。○家庭訪問でもつかめず「このままではだめだ	訪問	。幹部に直接、訴えた。 同市内で同７月に、５歳の男児が母親に殴られ
213	の経緯と県福祉相談センターとの主なやりとりと。■０４年１月２６日 県	訪問	。■同月８月２３日 次男の違う保育園が「頼と鼻にすり傷などがある」と
213	の経緯と県福祉相談センターとの主なやりとりと。■０４年１月２６日 県	訪問	。「子育てに限界を感じる。次男を預かってほしい」と母から申し出があ
217	ったという。 同市は昨年度から０歳児健診については未受診児の家庭を	訪問	する「児童虐待予防ローラー作戦」を行っている。樹莉ちゃんは３歳児健
222	らく休む」と電話があり、来なくなった。保育士らが２月初めまでに自宅	訪問	を５回、電話を数回したが、山下容疑者は毎回留守で、電話では、自らや
225	る子育てできないのではないかと」連絡があり、１２月下旬になって、	訪問	した職員が男児のけがに気づいたという。 2006
233	香容疑者（３３）にネグレクト（育児放棄）が疑われる情報を得て、家庭	訪問	を重ねていた。だが、児童相談所には通報していなかった。「救えたので
233	。その後、事件が起きた２日前の４月７日まで計９回、民生委員が家庭	訪問	していた。 民生委員が鈴香容疑者と最初に会ったのは今年１月末。鈴香
240	は昨年１１月下旬に骨折。病院からの連絡で、同所のケースワーカーが	訪問	した。母親は「知人が抱えたときに落としたりしたのでは」と説明したが、同所
240	同意を得て長男を保護した。 次男の誕生後は、同所は市と協力して市子	訪問	。虐待の疑いがあれば、連絡を受けたことになっていた。 次男が誕生し
241	９月下旬、傷害容疑で逮捕された香芝市の郷父（４９）は昨年９月、家庭	訪問	に怒り、幼稚園の関係者に言い放った。長男は右ひじを骨折し、幼稚園
241	庭相談センター」（大和高田市）と香芝市の職員計４人が初めて長男宅を	訪問	し、長男の「一時保護」に踏み切った。同センターの池田常雄所長は、「
244	強めることを申し合わせた。児童相談所の職員が虐待の疑いがある家庭を	訪問	した際に、保護者らに暴言を浴びせられたり暴力をふるわれそうになる
253	もりだが、判断に甘さがあったかもしれない」○かわれなかった後侮	訪問	を指示される。民生委員が訪問するのと相前後して、市の子育て支援課
253	もりだが、判断に甘さがあったかもしれない」○かわれなかった後侮	訪問	するのと相前後して、市の子育て支援課職員もやってくる。 子育て支援
254	事件前、学校から育児放棄を疑われる情報を得て、１月末から９回、家庭	訪問	を繰り返した。だが、嵐山鈴香被告（３３）ときちんと話が出来たのは初
258	所の児童福祉司は、１月初めから両親と連絡が取れなくなった。だが直接	訪問	することとも、群馬の児童相談所に協力を要請することにもなった。対応



表 1 1 キーワード「学校」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
4	た。また、少女は児童福祉法が定める保護を必要とする児童で、	学校	の教師、児童相談所の職員、警察官も適切な対応をしなかった側面があ
6	病院に行かなかったというのとは裏腹的な理由」と考えるようにな	学校	をほとんど休んだこともなく、先生や家族からも好かれていた。弁護
5	名古屋市で昨年暮れ、体調を崩して寝込んでいる小	学校	六年生の次女（当時一一）を母親（五四）が医者にみせず、放置して死
5	した家族関係が少女を死に追い込んだと判断した模様だ。少女が	学校	に通わなくなってから、孤独死まで四カ月。学校も、児童相談所も、
7	九五年度に七十七件と倍増している。社会全体の意識が高まり、	学校	や地域からの通報が増えたためと、県中央児童相談所ではみている。
7	別に、親は自分が虐待をしているという意識は希薄です。子どもが	学校	で先生に相談したり、病院の診察などから連絡があったりするケースが
8	います。さらに、朝になると登校をしるようになりました。	学校	でのいじめはありませんが、友人は一人もいないようです。次にJ君と
8	一人もいないようです。次にJ君と面談しました。友人のこと、	学校	のこと、何か悩んでいることなどを聞いても、「べつにー」「なにも一
15	病院で「ベッドから落ちた」と説明したという。昨年秋には、小	学校	四年生の女兒が深夜、外にいたところを警察官に保護された。乳幼児期
17	ない。残りは、子どものアザに気づくなどした付近住民や病院、	学校	などからの連絡だった。子ども本人が相談したケースは、ゼロだった。
19	た。◇ 千鶴ちゃんの死が伝わった七日夜、通っていた市立田彦小	学校	には、川窪洋子校長のほか、一年生の担任教師らが駆けつけた。「まさ
19	に子供たちには説明しづらい。それに、私たちにとっても、あまり	学校	などと連絡を取るなど、子供を守るための態勢は整っていた。しかし、
21	分に子どもができた時、虐待しないか怖くなる時がある。◆ 小	学校	低学年の長男を、母ヒロミ＝二十代、仮名＝は突き飛ばした。「どうし
22	まっているのか、積極的な訴えはない。◆ 小学生の子ども二人は	学校	に行っていない。 キミエに、子どもたちのことを「外には出ないの」と
24	体液が流れ出ていた。 父母と次女のほか、次男（当時二三）、長	学校	の教師や児童相談所の担当者は家を訪ねていた。そのたびに母親が「少
27	手手しに思っている」 東海地方のある五人家族。子ども三人は、小	学校	や保育園にほとんど通っていない。ふろに入れてもらえず髪もべとべと
27	い。ふろに入れてもらえず髪もべとべと。下の二人は、たまに行く	学校	や保育園で、教師や保育が見かねシャワーを浴びさせる。パンツには便
28	らをしたため、二人で相談して今年十一月月中旬から、段ボール箱	学校	に通う。心配した義母が依職ちゃんを二週間預かって育てたときは体重
34	。数人きょうだいの長女。アパートに母親と住む。通っている小	学校	からの通報で、児童福祉司は担当相談員として半月ほど観察を続けてき
36	初めて明文化した児童虐待防止法が施行され、子どもにかかわる	学校	関係者や医師に、虐待の早期発見・通告を義務づけた。県内でも、各児
37	を休んだ。このため千秋容疑者の両親が相談に訪れ、担任も学校に戻る	学校	に戻るよう説得したところ、千秋容疑者は「早く一緒にになりたい」と話
40	。入院先が紹介されるのを待っているあいだに、事件は起きた。	学校	や近隣の人たちの話から、一家の様子が少しずつわかってきた。会社員
40	しまった例が、昨年度だけで五件もあった。専門職員を増やし、	学校	に「わくわくプラザ」を開設した。毎日放課後、午後六時まで、一年生
42	が増えている。県内二カ所にある児童相談所に、家族や医療機関、	学校	などから寄せられた児童虐待に関する相談や連絡の数は、一九九三年度
46	たという。 同部では事件後、県内の各市町村や保育所、幼稚園、	学校	関係者らに対し、児童虐待に関する通報、連携の徹底を文書で指導した
49	と認定された。（水沢健一）《メモ》6月2日、津和野町で小	学校	3年だった8歳の女兒がロープで三重に縛られ、自宅庭のヒノキの枝に
51	級生との親たちが、SOSに気づいた。親に面倒を見てもらえず、	学校	や行政も救いきれない。もう一つの「虐待」が急増している。 男児は、
51	てごろ、男児と同級生の女兒の母親が買い物に行く途中、「今日、	学校	に行かなかった。お母さんに知られたらひどく怒られる」と、駆け寄っ
61	て児童虐待死事件では、周囲が「真実」に気づきながら、行政機関や	学校	の連携不足、判断や対応のまずさなどが重なって、最悪の結果を招いた
61	んが1人で玄関前で泣いているのを見ていた。この主婦は、自ら	学校	に相談。主婦の子どもは、杏実ちゃんの体のあざもみつけた。ある児童
62	痛を受けるなどして回復し、取り調べに応じているという。○「	学校	あてにならぬ」母に不信感 虐待前、子の相談機に溝 鈴木杏実（あずみ
62	唱子（ともこ）容疑者（32）は、虐待を始める前後から、強い	学校	不信を抱いていたことが、関係者の話で分かった。杏実ちゃんのこと
62	を抱いていたことが、関係者の話で分かった。杏実ちゃんのこと	学校	側に相談した際、親身になってもらえなかったと過剰な思い込みをした
62	んへの虐待はエスカレートするが、この「溝」が障害となって、	学校	側の対応も後手に回ったとみられている。 関係者の話や唱子容疑者らの
68	れる。家庭に入りながら、そうした異常な事態には対処できない	学校	関係者らから成る児童虐待防止対策連絡会議（会長・進藤秀一助役）を
87	改善するという。 県健康福祉部によると、これまで一般県民や	学校	などから児童虐待の通報があった場合は、全案件について、児童相談所
93	を助けている。 児童虐待の問題に詳しい高橋重宏・日本社会事業	学校	校長は「新潟の事件と同様、人生全般にわたる専門的なケアが要る。行
93	るように言い聞かせていた。と相談所はみている。生年月日も日に	学校	へ通わせる。6歳の3人は新1年生になるが、9歳の男の子は4年生に
95	置に放置し、十分な食事も与えなかった。長女は弟たちの世話で小	学校	を休んだ。児童相談所は貧血や低栄養状態にあった5人を児童養護施設
95	下で監視したりトイレに同行したりして学習を妨害。自宅でも「	学校	の教材は不潔だ」と言って勉強をさせないなどの行動を繰り返した。長
103	年11月に施行された児童虐待防止法がうたう関係機関、地域、	学校	などの連携が機能していない現状を浮き彫りにした。 県中央児童相談所
115	を続けているという。家庭訪問だけで判断が難しいケースは、里子が	学校	などにも聞き取り調査をする。 さらに同課は、県内の3児童相談所や里
123	るのは異例のケース。男児はその後2度の手術を受け、いまは小	学校	に通学しているという。 男児は先天性の心臓病の持病があったが、親の
126	あゆ美容疑者に引き取られたが、その後、同センターへの相談は	学校	、司法関係者などには早期発見の努力義務を課しているが、今回の事件
131	「……」と驚いた様子だった。近所の50代の主婦は「昨年春に小	学校	の運動会で両親や兄弟と一緒に梨緒ちゃんを見かけた。足が白く細く、
135	園長（54）によると、母親の恵里容疑者（31）が「地元の小	学校	に入るのを、近所の友人に慣れるため保育園を移りたい」と話したとい
135	たため、園側も気になっていたという。 同11月、地元の千両小	学校	で就学前健康診断があったが、今年入学予定の純那ちゃんは欠席。学校
136	づかった。食べ物も与えられずに虐待されて寝たきりになり、中	学校	には1年以上も通っていなかった。担任教諭は家庭訪問を繰り返したが
136	が、親に拒まれて面会さえできず、児童相談所は事実の確認をと	学校	に助言するだけだった。なぜ、もっと早く救い出すことができなかった
138	する。 なぜ、こんなことになるのを防げなかったのだろうか。	学校	の友人や近所では、虐待されているのではないかといううわさが広まっ
138	待されていた弟は家出し、離婚した実母のもとで暮らしている。	学校	は、長男が登校しなくなった一昨年の10月以降、家庭訪問を繰り返
139	殺されると思った」と打ち明けたという。 次男は02年4月、中	学校	進学を機に、それまで住んでいた烏野容疑者の両親宅から、烏野、川口
139	社会に対する不信感を払拭（ふっしょく）できるように、家庭や	学校	、地域住民らが必ず回復すると信じてじっくりかかわっていく必要があ

表12 キーワード「心」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
3	した。親に甘えたい気持ちはあるのに無防備になれず、ねじれた	心	が壁と秘密をつくつただろう。大人と子供、強者と弱者の感じ方は異
7	り、といったケースが含まれる。また、子どもの人格を否定し、	心	の健全な発達を妨げるような言葉でしかる「心理的虐待」が八件。父
8	幼児期の体験が	心	に後遺症 中学一年生のJ君は初め、「自分の毛髪を引き抜く癖（抜
9	た。実家では、母や姉が面倒を見てくれた。自分の時間ができ、	心	にゆとりを取り戻すことができた。しかし、長男のやんちゃぶりはま
17	な要因が重なりあって増幅する。子どもにとって肉体の傷にも、	心	の傷にもなる。後遺症が心配だ」。こう話すのは、千葉大学教育学部
22	なんでも相談してもらようにする立場」だ。しかし、相手が	心	の中を打ち明けてくれるまで、長い時間がかかる。保健婦が接する
25	は、毎月十二万円の家賃やローンを抱えていた。ささくれ立った	心	が、無抵抗の子供に向けられた。難癖をつけては子供をけり、六歳
28	らをしたため、二人で相談して今年十一月中旬から、段ボール箱	心	のケアにあたってきた。「人間は本能が壊れた動物であり、母性も暴
31	ナ、男性の暴力に嫌悪感を抱いていたことを明らかにした。人の	心	の間（やみ）の深さを見た気がした。十一月に施行された「児童虐待
32	気になった。若い母親の初めての子育てだから、相談役がいると	心	強いだろう。市の保健センターに電話し、保健婦を病院に呼んで母親
40	しまった例が、昨年度だけで五件もあった。専門職員を増やし、	心	細くなった今だからこそ、インターネットの活用も含めて新たな助け
54	の心身に与えた悪影響は大きい」などと主張。弁護側は「被告は	心	から反省している」として情状酌量を求めた。
58	はない。虐待された児童や親たちに対するカウンセリングなど、	心	のケアに時間と労力がかかる。相手との信頼関係が必要だ。同相談所
90	3件、99年度3441件だったのに対し、00年度は6318	心	の負担は大きいですよ」 Cさんの言葉に、彼女は、「今日から改め
95	全体の44%を占めた。次いで暴力などの身体的虐待が32%、	心	に傷を与える言動をする心理的虐待が20%、性的虐待が4%。虐待
111	刑が言い渡された。30日の名古屋地裁判決は、被告席の2人の	心	にどう届いたのか。（1面参照） 判決の言い渡しは、予定より約1
159	行される。改正法では「虐待の疑い」を持った時点での保護が認	心	に傷を与える心理的虐待、わいせつな行為を強要する性的虐待が含ま
163	本が見つかった14日、県南児童相談所の若林勝治所長は「大変	心	が痛む。児童の生命、安全を守る基本に立ち返り、努力する」と語っ
165	を下げて、おいてもらえばよかった」この日初めて、マスコミ	心	に深い傷を負った子供と日々向き合うことは予想以上に大変で、一度
173	とされる事件で、奈良地検は5日、長男に被虐待児症候群による	心	の傷などを負わせたとして、母親の住所不定、無職豊佐織（とよさお
174	など子どもに対する関心が薄い「ネグレクト」、言葉で子どもの	心	を傷つける「心理的虐待」、「性的虐待」の4種類に分けられる。同
177	姦姦（ごうかん）罪に問われている男が、妹に対しても虐待し、	心	に傷を負わせた疑いがあるとして、愛知県警が傷害容疑での再逮捕に
188	日には龍也君が通っていた保育園で保護者向けに説明会を開き、	心	のケアに努める。月末には、市の管理職員を対象に危機管理研修会を
195	者の長い列ができた。2人の幼すぎる死を、いまでも多くの人々が	心	に刻んでいる。午後3時4分。下山被告は、入り口で一礼してから社
201	男児の顔や腕には紫色のあざがある。保育士がたずねると、父	心	と体が傷ついた子どもたちを救う潜在的な力があると注目する。「ま
223	事責任能力はある」と認定しながらも、動機の裏に潜む母親の「	心	の病」を指摘する。兄妹を溺愛（できあい）していたという母親。そ
241	親にとっては、我々はどうとましい存在。訪問で拒否感が増し、	心	を閉ざすこともある」と釈明した。香芝市の担当者も「直接、セン
256	査が終わった。事件発生から40日が過ぎ、地元の子どもたちの	心	は安定してきた。諒介ちゃんが通っていた市立高畑保育園では先月

表13 キーワード「子育て」前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
5	った時は、児童相談所などに通告する義務があることを理解してほしい	子育て	に無関心になったという。長男は調べにケースし、「親らしいことをして
7	えよくあります。また父親が留守がちだったり、不在で母親が一人で	子育て	をし、心理的に追いつめられていたというケースもある」と、背景を
9	9 月後に亡くなった。結婚して初めて住んだ土地になかなかなじめず、	子育て	の相談をできる仲間身近になかった。外出できず、自分の殻に閉
9	が鼻るとしかる口調がきつくなり、思わず手が出ることもあった。「	子育て	なんて、もういやだ」と思ったことは何度もある。「この子から離れ
11	母親が「いい母親」なのか。虐待する母親に育てられ、「ふつうのお母	子育て	はマニュアルどおりにはいかないもの。どういう母親が良い母親なの
12	）。町村部でもその比率は増える傾向だ。男性の同僚は、「特別な事件	子育て	支援センターの設置事業を始めた。九八年四月現在で、県内三市一町に
12	）。町村部でもその比率は増える傾向だ。男性の同僚は、「特別な事件	子育て	サークルの育成支援や育児情報の提供を行う。しかし、一般家庭に事
27	とみられている。「餓死」という最悪の事態に至らないまでも、最近、	子育て	に興味を持てない母親が増えており、核家族化や地域からの孤立など、
28	いたずらをするため、二人で相談して今年十一月中旬から、段ボール箱	子育て	ぶりを心配した実家は何かと協力したが、しだいに二人はそんな実家の
32	な擦り傷や血腫の原因が不明なことが気になった。若い母親の初めての	子育て	だから、相談役がいると心強いだろう。市の保健センターに電話し、
36	件で、傷害致死ほう助で起訴された母親の初公判を傍聴して思った。県	子育て	支援課によると、1999年度に県内の児童相談所に寄せられた虐待に
37	ばれた若い夫婦は、だれにも相談できないまま、子育ての悩みを抱え込	子育て	をするだけ成熟していなかったということなのでしょうか……」と話し
38	漏らした。虐待は確認されず、保健婦と児童福祉司は保健センターの「	子育て	支援」で対応することを決めた。その翌日、相談所の定例会で依頼
38	決めた。その翌日、相談所の定例会で依頼ちゃんの手が報告され、「	子育て	支援」の方針を稲垣所長からも承した。同十一月十七日に保健セン
39	妻が満ちている。息子夫婦は依頼の面倒をほとんどない」と、夫婦の	子育て	に対する不安を口にしていた。その時の依頼ちゃんはおびていた様
40	阪市中央児童相談所で長年、家族の問題をみてきた津崎哲郎副所長は「	子育て	を抱えなくなった家族が増えた」と話す。家庭の問題を解決する能力
41	なせてしまった例が、昨年度だけで五件もあった。専門職員を増やし、	子育て	を応援する手厚い安全ネットをめざせたいものだ。地域の子育て経
41	……」義母は、夏ごろから息子夫婦と孫が住む二階に上がっていない。	子育て	の相談を受けることもなく、最近は嫁と言葉を交わすこともほとんど
41	という言葉を口にするようになったのが原因だ。——九番通報で駆け	子育て	について話し合うことはほとんどなかった。粧子容疑者が祐哉君を診察
42	やすい環境が整ったことが影響しているとみる一方、核家族化が進み、	子育て	のストレスが母親に集中するようになったことも大きな要因だと分析し
42	も大きな要因だと分析している。実際、昨年度寄せられた相談の六割が	子育て	をする仕組みが必要だという。
50	不安を感じたり、負担感を抱いたりしていることが多かった。私自身、	子育て	の際の自己評価は低かった。育児書に振り回され、子どものお乳を飲
57	致死事件を受け県では、保育所や医師、保健センター、警察などからな	子育て	はうまくいなくて当たり前、というメッセージを伝え続け、当事者
58	一つになることができる」からだという。職員の人員不足も大きな課題	子育て	をする親を支え、孤立を防ぐ姿勢がほしい。虐待の通報も、親を罰す
66	子どもが3歳になるまでは母親が	子育て	に専念すべきだという子育て観、いわゆる「3歳児神話」の再検討が
66	前には、夫婦の間にいざざがあったり、母親が働きたい気持ちを抑えて	子育て	観、いわゆる「3歳児神話」の再検討が進められている。4月末に東京
72	、保育士さんや保健婦さん、児童相談所職員、市の児童行政担当など、	子育て	にあたっていたりして、子どもにストレスがかかる要因があるのでは
96	担当する同時保健センター。乳児健診や予防接種などの機会を通して、	子育て	にかかわる行政関係の方々とお会いする機会が多く、その熱心に業務
98	指導員と施設長は5月末で退職したが、暴力は否定しているという。県	子育て	を支援、家庭内暴力や児童虐待を未然に防ぐ役割を果たしている。夜
115	んを見て、自分の子育てが間違っていないか悩んでいたらしい。夫は「	子育て	支援課によると、2月中旬に虐待を指摘する情報提供を受け、同下旬
121	保育園に入園。同年7月に「虐待の可能性があると、保育園から同市	子育て	に就いている」と感じ、「気長にやろうよ」と、なだめたという。県
129	山学院大文学部教授（小児保健学）は「女性の社会進出に伴い、一人で	子育て	支援課に初めて報告があった。以来、同課職員は、優香ちゃんが転園
140	出入りしていたことを全く知らなかったという。＊虐待事案として扱	子育て	をする男性が増えれば、育児ストレスを感じる男性が増えるだろう。相
143	材料がなかった」と説明する。このため別の虐待事件で長居小に入	子育て	を煩わしく思っていた嶋村被告は暴行を止めず、伊田、可部の両被告
145	提供する市民団体「CAP in ぐんま」。活動の中心は子育て世代、	子育て	を相談していた他の親や学校から話を聞くなど慎重に捜査した結果、
145	や家庭、自分の過去の悩みなど、大人自身の問題へと広がっていく。「	子育て	経験者だ。役割劇を通じ、子どもの権利や身を守る方法などを教える
146	て福岡さんに聞いてみた。「やりたいたいことや自分の時間を割かれるし	子育て	に失敗できない」「認められない」「ほめられない」——。そんな大
148	が多かった。「子どもができるまでは私の天下だった。なんで一人で	子育て	家庭の支援を目的に窓口を一本化。その場で対応する「ノンストップ
154	には保護者からの要請に基づく」と説明する。同センターの木村百合・	子育て	を抱え込まないといけないの。母親はストレスがたまると、ちよっ
168	とを重視し、虐待について触れることはしなかったという。高石市の	子育て	をするのは困難を極める。どう育てていいのかわからない状態だった
170	実は言っています。ハヌマン・ラングールという猿がインドにいます。	子育て	支援課が最初に家庭訪問を試みたのは9月3日。同課は12人のスタッ
171	に区が委託して子どもとの面倒をみるという仕組みがあった。そのお陰で	子育て	中の母親と配偶関係になった雄猿が、相手の連れ子を殺してしまう
172	もを抱えた奈良岡容疑者は、晶子さんが生まれた後の1984年に離婚	子育て	ができた。公的なものだけではなく、保育ママさんやNPOなども含
181	今年4月に開設された「ぐんまこども相談センター」（前橋市）でも、	子育て	に取り組んでいた。少なくともかつては気分で、自分の意思をはっきり
182	勢強化の動きが出てきた。益田市では、地域保健課、人権センター、	子育て	や児童虐待に加え、両親の夫婦関係についての相談にも応じている。県
182	48）は「増員だけで対応することはできない。児童虐待を防ぐには、	子育て	支援センター、市教委、生活福祉課が2月に母子連絡会議を設け、毎
186	う「小山城北教室」に17日、被虐待児の専門母親の小田和枝さん（4	子育て	中の親を地域で支えていくことが必要だ」と社会全体の支援を訴える。
187	までの立件は見送った。調べによると、出張で留守がちな父親は母親に	子育て	のかたわら、「こどもを虐待から守る一集（かずは）会」のホーム
198	「キャンペーン」を本格的にスタートさせた。このキャンペーンは、	子育て	を任せきり。母親が漢字ドリルを与えて教えていた。女性者は、簡単な
198	シンボルマークとしてオレンジのリボンを賛同者の胸につけてもらい、	子育て	応援のシンボルマークとしてオレンジのリボンを賛同者の胸につけて
209	行を受けて意識不明になった事件は、異変に気づいた近所の住民が市の	子育て	支援、虐待防止を訴えていくというもの。オレンジの色は、カンガ
209	ため、28日に知人の学校関係者にいきさつを話すと、「まず市役所の	子育て	支援室に通報しようとしていた矢先の出来事だった。住民は「一日で
213	経緯と県福祉相談センターとの主なやりとりと」 ■04年1月26日 県	子育て	支援室に連絡を」と教えられた。このため、29日に書面を準備し、
214	現状では市独自のマニュアルなども作製しておらず、ほかの自治体の取	子育て	に限界を感じる。次男を預かってほしい」と母から申し出がある。 ■
214	現状では市独自のマニュアルなども作製しておらず、ほかの自治体の取	子育て	支援本部」を設け、医療、教育など横断的な組織を立ち上げるべきだ
216	山口市朝田の新興住宅地で03年に起きた双子殺害事件は、	子育て	支援策を打ち出す必要がある。
216	には162件にまで増えている。県児童家庭課は「悩んでいても周囲や	子育て	の悩みを単身赴任の夫に打ち明けられず、1人で抱え込んだ末の犯行
222	・子ども相談課長は「今回の事件をどうしたら防げたのか。母親たちの	子育て	支援団体などに相談できない母親を、どうするかが課題だ。学校や市
223	やピクニック公園に出かけた。長男は学校で友人に家族だんらんの様子	子育て	を支える仕組み作りとともに、私たちに何ができるのか考えたい」と
223	やピクニック公園に出かけた。長男は学校で友人に家族だんらんの様子	子育て	に疲れても、そのストレス処理が個人のみを負わされることが多い。長
225	談所には昨年10月ごろ、母子が受診した甲府市内の病院から「母親が	子育て	経験を共有して理解し合う「横のつながり」がなくなってきたためだ
234	際に彩香さんが外に出されていた、カップ麺ばかり食べさせられてい	子育て	できないのではないかと」連絡があり、12月下旬になって、訪問し
253	りだが、判断に甘さがあったかもしれない」 ○かわれなかった後悔	子育て	支援など活動は拡大している。
253	りだが、判断に甘さがあったかもしれない」 ○かわれなかった後悔	子育て	支援課も、子どもがいる家庭への訪問を始めた。兄弟にかかわれな
258	めてほしい」と呼びかける。 ●親の孤立防げ 虐待を未然に防ぐには「	子育て	家庭について何らかの情報提供は持っているという思いが強い。こ
258	めてほしい」と呼びかける。 ●親の孤立防げ 虐待を未然に防ぐには「	子育て	を孤立させないこと」と、日本子ども家庭総合研究所の才村純さんは



表14 キーワード「医師」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
5	に分類される。今回の事件は、親が適切な衣食住の話をせず放置し、	医師	にみせていないとされ、虐待の事例に当てはまる。児童相談所は、不登校
6	本重一四キロ。靴のサイズは十五センチ。歯の成長具合や体格などから、	医師	は三歳過ぎと推定した。服のサイズも体に合い、体も清潔で散髪もされて
15	ミルクを飲まなかったことに腹を立て、自宅で腹を殴るなどした。病院で	医師	に「鼻水が続き、熱が出た」と告げ、きちんとした治療を受けさせなかつ
25	け、蚊取り線香によるやけどは百力以上であった。「顔はどうしたの」	医師	の問いに、母親は「転んだ」と答えた。「じゃ、やけどは?」「お兄ち
26	母容疑者は依織ちゃんが死亡する前の約一週間、ほとんど食事を与えず、	医師	の治療を受けさせずに放置したことが分かった。また「かわいくないから
26	に放置していた。十一月中旬ごろからは、依織ちゃんが極度にやせ細り、	医師	の治療などが必要になったのを知りつつ、適切な処置をせず、段ボール箱
28	ひいたずらををしたため、二人で相談して今年十一月中旬から、段ボール箱	医師	から入院を勧められたときも、「長男の世話もある」との理由で拒否し
30	て訴える。依織ちゃんが死亡する前の約一週間、ほとんど食事を与えず、	医師	の治療を受けさせずに放置したことなどが殺人行為に当たると判断した模
33	前頭部に内出血があった。しかし、吐き気やしびれを訴えなかったため、	医師	は精密検査をせずに帰宅させた。病院側は「虐待を疑わせる兆候がなかつ
33	十一月に施行された児童虐待防止法は、学校（幼稚園を含む）の教職員や	医師	について、「虐待の早期発見に努めなければならない」と規定した。しか
33	高いとは言えない。名古屋市中八、九両日に開かれた「日本子どもの虐	医師	が見つけたのは5%に過ぎない。愛知県医師会の調査では、虐待を発見し
36	く明文化した児童虐待防止法が施行され、子どもにかかわる学校関係者や	医師	に、虐待の早期発見・通告を義務づけた。県内でも、各児童相談所間の情
37	後遺症を極端に気にしていたという。昨年六月の一歳六カ月健診の際も「	医師	から『急性硬膜下血腫で発達が遅れるかもしれない』と言われたことがあ
37	告げられた若い夫婦は、だれにも相談できないまま、子育ての悩みを抱え込	医師	らは、そう感じていた。同病院の六産直視（むつがなおみ）院長は十二日、
37	告げられた若い夫婦は、だれにも相談できないまま、子育ての悩みを抱え込	医師	から連絡があった。健康福祉委員会では「各機関の連携はどうなっていた
37	告げられた若い夫婦は、だれにも相談できないまま、子育ての悩みを抱え込	医師	に言われた」 6月30日 母親が長男出産 8月20日 保健婦が訪問。母
37	告げられた若い夫婦は、だれにも相談できないまま、子育ての悩みを抱え込	医師	は入院を勧めたが、母親は拒否 8月21日 再度受診。体重11キロに増
37	告げられた若い夫婦は、だれにも相談できないまま、子育ての悩みを抱え込	医師	は定期的な受診を指示 11月中旬（両親の話）依織ちゃんのいたずらら
38	末吉課長は「もっと繰り返し自宅を訪ねるべきだった」と言いつつ、「	医師	らに、虐待の早期発見に努めよう求めている。家庭への立ち入り調査や
39	たいし、幼児教室にも通わせたい」と話していたという。病院から通報	医師	などの専門家は、早期発見に努め、児童相談所に通報するよう求めている
57	やむ。昨年7月の富士市での双子虐待致死事件を受け県では、保育所や	医師	、保健センター、警察などからなる児童虐待防止ネットワークを作り関係
62	音楽と同じ苦しみを味わいた」と絶食し、一時体調を崩した。その後、	医師	の診察を受けて点滴を受けるとして回復し、取り調べに応じているとい
62	また関係者によると、囁子容疑者は5月ごろ、杏実ちゃんが間違っって書	医師	金などの機関が参加して立ち上げた。児童虐待などがうかがわれる事例で
66	」を挙げた。鈴木さんは「リストラが横行する現在、母親の就労状況も	医師	らが作った日本乳幼児行動発達研究会が発展して設立され、今回が初めて
66	」を挙げた。鈴木さんは「リストラが横行する現在、母親の就労状況も	医師	、心理学者、養長類学者らと、子育てに携わる親、保育士、育児産業関係
77	えずに放置。昨年十一月下旬ごろからは、依織ちゃんが極度にやせ細り、	医師	の治療がなければ死亡することを認識しながら、それもやむを得ないと決
81	事件が起こったのは残念」と話し、虐待防止の緊急会議を開く考えを示	医師	によると、モニシヤちゃんに両下肢の広い範囲、雄介君は下腹部から両下
81	事件が起こったのは残念」と話し、虐待防止の緊急会議を開く考えを示	医師	によると、二人とも顔など五、六カ所に殴られたようなあざがあった。母
89	。横山被告が最初に逮捕されたのは昨年1月。三男のやけどを診察した	医師	が「虐待の恐れがある」と児童相談所に通報したのがきっかけだった。そ
89	」として横山夫婦の逮捕に踏み切った。県警は死亡当時、司法解剖した	医師	が「ネグレクト（養育の放棄、怠慢）の可能性があると」指摘したのに捜
90	度2213件、99年度3441件だったのに対し、00年度は6318	医師	会2000年度調査）92年から96年の5年間の虐待死245件のうち
94	退院まで接触を控えることにしていたという。4月1日になって病院の	医師	が長女の左ふとももの骨が折れているのを確認、警察とセンターに連絡し
94	兄は3月2日に救急車で搬送されてきた。くも膜下出血で治療に当たった	医師	から「虐待の可能性があると」の報告があり、病院の児童虐待対策会議（
94	また病院では3月11日に、児童相談所から警察へ連絡するよう指示	医師	や看護士、検査技師ら十数名で構成されている。児童虐待対策マニュアル
109	立病院。れいなちゃんから停止状態で運ばれてきた。「これはひどい」。	医師	は警察に通報した。顔のあざは数日前に暴力を受けたことの証しだった。腹
109	した。顔のあざは数日前に暴力を受けたことの証しだ。そう直感した。	医師	団が懸命に、れいなちゃんに胸部マッサージを施すうち、舌のたまった腫
109	なちゃんへの虐待を示すサインは、死の1カ月以上前からあった＝表。	医師	の通報を受けた県児童総合相談センター（鹿児島市）が、市児童家庭課と
111	んが誕生した当時は、ともに18歳だった。逮捕から半年余りたった昨	医師	や警察官、児童福祉の担当者らが連携する「危機児童・家庭サポートチー
114	ぬ。米満容疑者が同日夜、市内の病院に運んだが、不審な外傷に気づいた	医師	が同着に通報した。米満容疑者は内縁の妻、妻の長男、次男と4人暮らし
118	わった様子ではなかったとしている。12月3日には市の4カ月健診で、	医師	が彩華ちゃんを診察したが、骨折には気付かず、あざなど虐待をうかがわ
126	傷はなかった。やせ細った体に広がる無数のあざ、不自然な擦り傷……。	医師	は虐待を疑った。彦根署は、内装業を営む父親の情容疑者（26）、母親
127	きないのちと」では、染色体異常の赤ちゃんの治療を親が希望したのに、	医師	が消極的だった例を探り上げました。逆に親が重たい障害が残ることなど
132	いる恭一君にぬいぐるみや花を贈り、手紙を書いていた事実も明らかにさ	医師	や教職員らは児童相談所などへの通告を義務づけられた。児童虐待問題に
139	症候群」と診断されたいことがわかった。大阪府警が診察を依頼した	医師	が診断した。府警は長男の虐待現場にいた次男の証言を重視しており、次
140	ーがやっと元気ちゃんに会えたのは、体調不良を訴え始めた鳴村被告に	医師	の診察を受けさせるため、センター側の指導で長女と元気ちゃんを児童養
148	た。1年ほど前、ヒロミは腹痛を訴え、父親と県内のA病院を訪れた。	医師	は「精神面からの痛み」と診断。カウンセラー室を紹介した。ヒロミはそ
153	置や保護者への指導や施設入所などの措置を取るために必要な手続きで、	医師	や弁護士、県民委員など児童福祉の専門家5人が出席した。県によると
163	夏の下は調わずに体のアザを見落とし、虐待を記録するために保存すべき	医師	の診断書も取っていなかった。担当者は「証拠写真は警察に『撮っている
172	を抱えているため行動の自由はきかない。それでも逮捕された母親は、	医師	にみせることさえしなかった。わが子を餓死させた母親の心を探った。
177	がきっかけだった。02年1月、愛知県内の小児医学の専門家でもある	医師	に診断を依頼した結果、次女の背中の傷を確認した。「自傷行為ではない
177	とみて、次女に聞き取り調査をしたところ、虐待行為が明らかになった。	医師	はデジタルカメラで傷を撮影し、証拠として県警に提出。同年12月、接
178	ことも虐待が把握できなかった一つの要因」とした。市は03年1月、	医師	会、民生委員、小山署、児相などとともに「小山市児童虐待防止等ネッ
179	虐待したのは同居人の男である可能性が高まった。しかし、（1）あざは	医師	の診断や治療を要するものではなかった（2）父親が被害届を出さず、自
191	いた事実を認識していた、と指摘。「11月まで約1カ月半にわたって	医師	の治療を受けさせずに放置したのは、確定的な殺意を有していたと認めら
201	く手術を受けた。退院後は、必要な治療に連れて行けなかったんです	医師	はネグレクト（育児放棄）と身体的虐待が濃厚と感じ、児童相談所（児相）
210	になった。男児の顔や体には紫色のあざがある。保育士がたずねると、父	医師	は89％、日常診療で虐待を疑うことができる人とも80％にのぼ
213	り経緯と県福祉相談センターとの主なやりとり> ■04年1月26日 県	医師	からの連絡で虐待が発覚。大宮署が8日、傷害容疑で佐藤容疑者を逮捕
223	歳やビクニック公園に出かけた。長男は学校で友人に家族だんらんの様子	医師	、児童相談所、学校のそれぞれが、出来る限りの範囲で対応したと思っ
228	なかったはずはない」と指摘。03年9月中旬ごろに衰弱を認識した後も	医師	の治療を受けさせなかったことなどから、確定的な殺意があったと判断し
242	日後、同センターの相談員が、男児が運ば込まれた病院に駆け付けた。	医師	からは「打撲の状況から拳で頭部や足を数回殴られており、虐待の疑いが
256	ことを決めた。栗林次美市長が4日、記者会見で明かした。今週中にも、	医師	やカウンセラー専門家による連絡会議を立ち上げて検討するという。県

表15 キーワード「放置」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
4	を崩して壊込んでいる小学六年生の次女（当時一）を医者にみせず、	放置	して死亡させたとして、保護責任者遺棄致死の罪に問われている無職の母
5	いる小学校六年生の次女（当時一）を母親（五四）が医者にみせず、	放置	して死亡させた疑いで逮捕された事件で、名古屋地検は二十四日午後には
5	怠慢——に分類される。今回の事件は、親が適切な衣食住の世話をせず	放置	し、医師にみせていないとされ、虐待の事例に当てはまる。児童相談所
6	寄せられた。しかし、身元につながる情報はまだない。戸籍法に基づき	放置	されたりした棄児は二百五十人。児童福祉法に基づいて、うち九十三人が
10	小学六年生の次女（当時一）を医者にみせず、四カ月間	放置	して死亡させたとして、保護責任者遺棄致死の罪に問われている母親（五
10	ることを知りながら、医者にみせず、満足な食事、入浴をさせないまま	放置	。十二月下旬、当時住んでいた名古屋市千種区内の自宅で栄養障害と細
17	もたちを大人が虐待、死亡させてしまう事件が県内で相次いだ。母親に	放置	された一歳の女児は餓死するなど、痛ましい事件ばかりだ。「児童虐待」
18	受けた形跡はなかったものの、暑い日が続く中、かきのかかった部屋で	放置	されていたため、児童虐待の中でも「保護の怠慢」にあたると判断したと
19	きない子供を六時間以上にわたって交代で殴りつけ、手を縛って半日間	放置	するというせいぜい惨さが、周囲に衝撃を与えている。この事件に限らず、各
24	んだ小学六年生の次女（当時一）を医者にみせず、自宅に四カ月間も	放置	して死亡させたとして、保護責任者遺棄致死の罪に問われた同市熱田区の
24	満足な食事を与えないまま、入浴などの世話もせず、医者にも見せずに	放置	。同年十二月、栄養障害と敗血症で死亡させた。父母はともに、初公判
26	する前の約一週間、ほとんど食事を与えず、医師の治療を受けさせずに	放置	したことが分かった。また「かわいくないから死んでもかまわないと思っ
26	織ちゃんを自宅三畳間で段ボール箱に閉じこめて満足な食事を与えずに	放置	していた。十一月中旬ごろからは、依織ちゃんが極度にやせ細り、医師の
27	名古屋地裁で、体調を崩した小学六年生の次女を医師に診せず四カ月間	放置	して死なせたとして、保護責任者遺棄致死の有罪判決が両親に言い渡され
29	訴する。依織ちゃんが死亡する前の約一週間、ほとんど食事を与えず、	放置	したことなどが殺人に当たると判断したとみられる。いわゆるネグレクト
29	特に餓死するまでの一週間前後は衰弱で何も食べられなくなった状態で	放置	。依織ちゃんは今年十日に死亡した。先に殺人罪を適用された山形県米
33	善いとは言えない。名古屋市中、九両日に開かれた「日本子どもの虐	放置	し、栄養失調で死亡させた ●8月15日 大阪府守口市 男（30）が女
33	善いとは言えない。名古屋市中、九両日に開かれた「日本子どもの虐	放置	し、餓死させた ※いづれも逮捕段階の容疑。日付は子どもの死亡した日
36	き合いが希薄になり、気軽に相談できる人が周りにいないため、悩みを	放置	したり、一人で抱え込んだりする例が少なくないという。国府の事件も
36	（二）に虐待された生後四カ月の乳児が死亡している。国や県なども	放置	しているわけではない。十一月二十日には、虐待を「保護者が児童に対し
37	腹下血腫の後遺症で発育が遅れていると思ひ込み、あまり面倒をみずに	放置	するようになったとみられることが、愛知県警北田署の十二日までの調べ
37	。半田署は、長男の育児や第三子の妊娠に関心を奪われて依織ちゃんを	放置	するようになったうえ、一カ月前からは、いたずらをした依織ちゃんに食
38	末吉課長は「もっと繰り返して自宅を訪ねるべきだった」と言いつつ、	放置	していた。必要な医療を受けさせない『メデイカル・ネグレクト』にあ
39	たいし、幼児教室にも通わせたい」と話していたという。病院から通報	放置	（4）心理的外傷を与える言動——と定義。医師などの専門家は、早期発
44	は話す。優ちゃんは今年六月初めごろになって、極度にやせて衰弱し、	放置	すれば死亡する危険な状態に陥った。調べによると、両容疑者はやせ細
49	児がロープで三重に縛られ、自宅庭のヒノキの枝につるされて約2時間	放置	された。晴れて日差しが強く、午後2時の気温は27度を超える夏日だっ
54	午前1時ごろから、男児の両腕、両足をタオルで縛り6時半そのまま	放置	、数回に渡って熱湯をかけ、胸などにやけどを負わせるなどしたという。
61	た奇実（あずみ）ちゃん（7）を自宅台所の冷蔵庫に縛り付け、4日間	放置	していたことや、周囲に虐待の事実を隠すため、部屋の窓に目張りをして
68	6）は出かけるたびに翔ちゃんを柱に縛りつけた。7～8時間そのまま	放置	されたこともあった。曾祖父（そうそふ）の著作容疑者（78）は2人き
75	名古屋地裁であった。千秋被告と万里子被告は、長女に食事を与えずに	放置	した事実は認めたが、「死んでもやむを得ない」と決意した覚えはない「
77	の万里子被告（二）が、十四日に名古屋地裁で開かれる初公判で、「	放置	したのは事実だが、殺すつもりはなかった」として殺意を否認する方針で
85	新聞紙とゴミ袋でくるんで粘着テープを巻き、自宅の居室に約46時間	放置	。8月には顔を平手で何度も殴ったりして2週間のけがをさせた。2002
87	金沢市内の幼児2人が暖房も食べ物もない部屋に3日間	放置	された事件に関連して、各本正憲知事は18日の県議会本会議で、「児童
95	実態を初めて分析したところ、食事を与えなかったり不潔な状態のまま	放置	したりする「ネグレクト」の被害が目立って多いことがわかった。児童
95	ら三男（1）までの子ども5人をトイレが使えない家に犬や猫と一緒に	放置	し、十分な食事も与えなかった。長女は弟たちの世話で小学校を休んだ。
105	どころ「共謀は明らか」と指摘した。一方、両被告側は「食事を与えず	放置	したのは事実だが、死んでもやむを得ない」と決意した覚えはなく共謀もし
105	織ちゃんを自宅の3畳間で段ボールに閉じこめ、適切な食事を与えずに	放置	。00年11月下旬ごろから極度にやせて、診療を受けなければ衰弱死す
111	んが誕生した当時は、ともに18歳だった。逮捕から半年余りたった昨	放置	し、むごたらしい死に方をしたことなどを考えれば殺人を認定するのはや
111	んが誕生した当時は、ともに18歳だった。逮捕から半年余りたった昨	放置	していれば死めと考えるのが妥当で、「死めとは思わなかった」という
112	したが、石山容示裁判長は「適切な食事を与えず、治療を受けさせず	放置	したことが、長女の死につながり、殺人の実行行為と評価できる」と述べ
119	母親のせつかんで大やけどを負った2歳の女の子が治療を受けられず	放置	されて亡くなった。千葉県我孫子市では、5歳の女の子が母親と祖母の
120	裁判長は「2人は女児に十分な食事を与えず、段ボール箱に閉じこめて	放置	しており、未必の故意があった」と述べた。この事件では児童虐待の一
122	傷害などの容疑で逮捕した。また、長女が衰弱しているのを知りながら	放置	したとして、会社員の父親（25）も保護責任者遺棄容疑で逮捕した。ど
122	で、長女に平手で暴行するなど約2週間のけがを負わせ、父親とともに	放置	した疑い。5月ごろ都城児童相談所に、この長女の体には「最近、あざが
131	に、子どもを風呂に入れなかったり、衣類の洗濯をせずに不衛生なまま	放置	したりする例も目立つという。同相談所によれば、身体的な虐待に比べ
134	。関を裏付ける証拠はない」と指摘。さらに「縛り付けた行為より、	放置	したのが最大の死因。被告の責任の重さは変わらない」とし、「単独犯で
136	それ以上の措置はとれませんでした」と記者会見で説明した。岸和田子	放置	して餓死させたとして、両親が殺人罪で起訴された。昨年11月には、同
137	因ではないか。家の中に立ち入ることができないと今回のような悲劇が	放置	された状況になる」と述べた。今後の対応について「警察官ともども（
160	かけに、下山容疑者宅に同居したと見られる。下山容疑者も離婚して子	放置	したと供述した小山市間々田の公園付近は、街灯がまばらで、人の気配も
161	索を続けた。しかし、下山容疑者はあいまいな供述を繰り返した。2人を	放置	したと供述した小山市南部の公園でも手がたりはつめなかった。○産
163	と話した。◇殺害容疑、再逮捕へ 栃木県捜査本部は一斗ちゃん、隼	放置	も虐待とする改正児童虐待防止法が施行される。警察の強制立ち入りは見
164	果の報告は受けなかった。下山容疑者と兄弟の同居が再開してもそれを	放置	。その間に事件は起きた。「一斗ちゃん、隼ちゃん、守ってあげられ
169	東京都羽村市で16歳の少女が餓死するまで	放置	され、母親の奈良岡恒子容疑者（47）が保護責任者遺棄致死容疑で逮捕
187	近所の人も市も学校関係者も、最後までその壁を破れないまま、問題は	放置	され続けた。（岩田誠司）女性が暮らしていた市営団地は福岡空港に近
191	らすなどの虐待行為を30年11月まで続け、衰弱した長男をそのまま	放置	して殺害しようとした。公判で鳥野被告側は「暴行はあったが、しつけ
199	庭の直径約50センチ、深さ約50センチの穴に首まで埋め、約1時間	放置	した。穴から出した後、風呂に入れ、再び殴るなどした。三山容疑者は、
224	アパートで島内碧（へき）ちゃん（3）が水を張った浴槽で正座のまま	放置	されるなどの虐待を受け死亡した事件で、殺人容疑で逮捕された父の詩角
232	それら刑罰していた。傷害致死罪としては重い。何度も殴打して水風呂に	放置	した犯行の悪質さに加え、児童虐待事件に対する求刑や判決が年々重くな
241	がない」などの理由で相談所は介入しなかった。しかし、家の外に放り	放置	するなど養育の怠慢・拒否（ネグレクト）が最も多く222件（前年度）
242	てまだ8カ月の男児が顔を殴られ、瀕死（ひんし）の状態で約8時間も	放置	された。奈良市内で16日、同居人の男と実母が逮捕された男児殺人未遂
255	た。「ごめんなさい」と謝る碧ちゃんを、声が小さいと言ってそのまま	放置	した。碧ちゃんは同日、全身打撃による外傷性ショックで死亡した。検

表 16 キーワード「地域」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
5	がうまくいってれば、虐待の疑いがあると判断できたのではないか。	地域	の人も、子どもが危険な状態だとわかった時は、児童相談所などに通告
7	九五年度に七十七件と倍増している。社会全体の意識が高まり、学校や	地域	からの通報が増えたためと、県中央児童相談所ではみている。○満足
12	町。町村部でもその比率は増える傾向だ。男性の同僚は、「特別な事件	地域	の親を対象に、子育てサークルの育成支援や育児情報の提供を行う。
17	の対処策をまとめた。子どもたちを守るには、「親自身の努力、家族や	地域	、行政の支えが必要」と指摘する。しかし、本格的な対策は、まだこれ
24	側は父親の鑑定も申請したが、採用されなかった。○密室の虐待対策	地域	連携も必要 小学六年生の次女が、両親や兄弟と一緒に暮らしながら、
26	されたが、捜査当局は殺意を認定し、殺人に罪名を切り替えた。＝一部	地域	既報（２４・２５面に関係記事） 名古屋地検や愛知県警の調べでは、
27	までも、最近、子育てに興味が持てない母親が増えており、核家族化や	地域	からの孤立など、今の社会状況がネグレクトの背景にあるとも指摘され
31	と人とのつながりが希薄になりつつある現在、孤立しがちな母親たちと	地域	住民、行政の担当者が、日ごろから心の触れ合いを取り戻すことが必要
36	る例も多い」と話す。相談でき、見守ってくれる隣人の存在は大きい。	地域	社会のありかたから議論する必要があるのではないかと。 2000
39	った。（１面参照） 歩けないほど衰弱していた依織ちゃんの異変に、	地域	の福祉関係者は一年以上前から気づいていた。 武豊町保健センターは
40	増えた」と話す。 家庭の問題を解決する能力のない未熟な親の増加、	地域	における家族の孤立化、経済的な苦しさなどが背景にある。 幼い命を
41	という言葉を口にするようになったのが原因だ。＝九番通報で駆け	地域	でも、親子容疑者が相談する相手は限られていた。一人で思い悩んだ推
45	いて、高橋和雄知事は二十八日の定例会見で「非常に残念な話。親も、	地域	社会の環境も十分ではなかった。要因を突き止めて対応する責務がある
49	壁」のようなものがあって、真相を知るのを難しくしていた。 県は、	地域	で虐待の可能性がある家庭などを児童相談所に通告する「インフォーマ
50	子育て支援	地域	の力で 子どもが親や保護者から虐待され最悪の場合、死に至る――そ
58	事件の反省と教訓を生かすことができたのだろうか。（永田篤史） ●	地域	の意識向上 袖ヶ浦市が４月末に児童虐待防止対策連絡会議を発足させ
66	任せには子にストレス この調査をしたのは、国立精神神経センター家族	地域	研究室長の菅原ますみさん。８４年から８６年に神奈川県産の病院で出産
68	で行われる。家庭に入りながら、そうした異常な事態には対処できない	地域	の民生委員や学校関係者らから成る児童虐待防止対策連絡会議（会長・
82	あせなかったのかかもしれない。今回のような内縁関係などの家庭環境は	地域	と接触する機会が極端に乏しくなりがちだ。それが事前に周囲が異常に
103	事件は、００年１１月に施行された児童虐待防止法がうたう関係機関、	地域	、学校などの連携が機能していない現状を浮き彫りにした。 県中央児
111	が誕生した当時は、ともに１８歳だった。 逮捕から半年余りたった昨	地域	の医師や警察官、児童福祉の担当者らが連携する「危機児童・家庭ササ
116	入届も出しておらず、市は住所も把握していなかった。 同相談所は「	地域	との関係も疎遠で、虐待の情報が外に漏れにくいケース。 今後は市など
126	して、あゆ美容室者に引き取られたが、その後、同センターへの相談は	地域	住民の協力がかせない。虐待する親を含めた家族への支援態勢の強化
139	社会に対する不信感を払拭（ふっしょく）できるように、家庭や学校、	地域	住民らが必ず回復すると信じてじっくりかかわっていく必要がある。
152	れていなかった。 同児童相談所は「虐待があっても、小学校、病院、	地域	住民などが連携すれば早期発見は可能だ。子どもの被害が拡大する前に
171	柱の一つにしている。 予算配分や人員配置を効果的にすると同時に、	地域	の中でどうやって支えていけるかということも必要になってくる。 私
181	ック・バイオレンス（ＤＶ）などの暴力の問題、家族との関係、職場や	地域	の人間関係など、幅広い悩みに応じる。 当初はＤＶの加害者としての
182	に、関係機関に情報交換や態勢強化の動きが出てきた。 益田市では、	地域	保健課、人権センター、子育て支援センター、市教委、生活福祉課が２
186	う「小山城北教室」に１７日、被虐待児の専門里親の小田和枝さん（４	地域	活動の核となる人材を養成するための講座を始める。 参加を予定してい
187	ど外出できず学校にも通っていなかった問題は、母親（４０）が女性と	地域	社会との接触を拒んできたために生まれた。近所の人々も学校関係者
196	として考える意識が欠けていた」として、今年４月、「要保護児童対策	地域	協議会」を発足させた。 協議会は虐待を受けた子どもなど要保護児童
201	なった。男児の顔や腕には紫色のあざがある。保育士がたずねると、父	地域	で親子を見守りながら対応する方針が固まった。 「保育士は毎日、子
205	多い」と説明する。 ○家庭訪問でもつかめず「このままではだめだ。	地域	やＣＡＰＮＡとの連携でうまくいっている事例もある。できる限り保護
208	町村長あてに児童虐待の通告制度の周知を図るよう通知した。同時に、	地域	ぐるみで児童虐待の防止を訴える県民向けの呼びかけ文と県が作製した
214	・新旭町の虐待防止ネットワークが岐路に立っている。新旭町は学校や	地域	と密接に連携する独自の取り組みを続けてきたが、この仕組みを支えた
215	児童、保健センター、学校や保育所など、身近な機関へ相談するなど、	地域	で子どもと家庭を支援することが大切だ」と関係者は指摘している。
216	支援交流広場を設けた。メールマガジンで子育て支援情報も配信開始。	地域	の支援組織などを紹介したＤＶＤとビデオテープを作り、来月から転入
223	やピクニック公園に出かけた。長男は学校で友人に家族だんらんの様子	地域	社会に、子育て経験を共有して理解し合う「横のつながり」がなくなっ
233	るという。ただ、町は家のかぎを開けっ放しで外出するようなのかな	地域	だ。桐越さんは「町民も土地柄、他人の悪口はめったに言わない。そん
234	いう。 ただ、同町は家のかぎを開けっ放しで外出するようなのかな	地域	だ。桐越さんは「町民も地域柄、他人の悪口はめったに言わない。そん
235	いどおりにならない幼児期に芽生えることが多い。鈴香被告の場合は、	地域	や家族の目などを気にしてか、『いい母』を演じ続ける必要があったの
242	保健所や学校の健康診断の際に児童の様子をチェックしてもらったり、	地域	で地道にやってくしかない」と話す。 しかし、今回の事件では母子
249	左々木拓夢ちゃん（３）が餓死した虐待事件で、厚生労働省は２７日、	地域	住民から虐待を疑う声が上がっていたにもかかわらず、拓夢ちゃんに直
253	りだが、判断に甘さがあったかもしれない」 ○かわれなかった後悔	地域	を担当する栃木県南児童相談所の牧恒男所長は断言した。 「とにかく
254	が疑われる）体の様子を気をつけてください」と依頼するにとどめた。	地域	の民生児童委員には、母子の転入さえ伝えていなかった。 同県藤原町



表17 キーワード「検察側」の前後の文脈

番号	左の語列	検索語	右の語列
4	こよる鑑定を求めた。 弁護側は起訴事実についても争う姿勢を示した。	検察側	が少女の死因を、栄養障害と敗血症の合併とした点にも疑問を投げかけ
9	川原誠裁判長)でほぼ半年ぶりに再開される公判に鑑定書を提出する。	検察側	は鑑定人に対する尋問を請求するとみられ、再鑑定を求めるかどうか
10	区内の自宅で栄養障害と細菌感染による合併症で死亡させたとされる。	検察側	は冒頭陳述で、次女はごみで埋もれた部屋の中で排せつ物を垂れ流し
10	的に問題があり、摂食障害(拒食症)を起こしていた可能性がある」と	検察側	が主張した死因にも疑問を投げかけ、起訴事実についても争う姿勢を
15	炭点数が急増している。「声なき声」をどう救うのか、課題は大きい。	検察側	の冒頭陳述などによると、高峰被告は四年前に結婚し、長女と長男を
24	庭の機能不全が引き起こした事件だ」と訴え、無罪を主張した。 一方、	検察側	は父母に責任能力があったとしたうえで、「経済的余裕がなかったため
31	して思えば……」と口々に話した。 その後、十二月二十一日の初公判。	検察側	は、母親が夫の暴力でストレスが募り、その解消のため子どもに暴行を
36	れば子どもたちを守るのだろうか。(木村和規) 国府町の事件で、	検察側	は冒頭陳述で「ごめんない、ごめんない」と泣きながら語る男の
47	に対する論告求刑公判が二日、釧路地裁(鹿島秀樹裁判官)であった。	検察側	は「幼児をおもちゃ扱いするなど、残忍で悪質、危険きわまりない犯
47	る社会的な批判も高まっている」として、被告に懲役二年を求刑した。	検察側	は初公判の冒頭陳述で「一度に百発以上のエアガンの弾を、至近距離
47	月らかにしていた。 この日は論告求刑に先立ち、被告人質問があった。	検察側	から、長男の母親にも撃つように強要したことを問われた被告は「家の
54	日、長崎地裁(山本恵三裁判官)であり、大山被告は起訴事実を認め、	検察側	は懲役3年を求刑した。 起訴状などによると、大山被告は7月15日
55	放回に渡って熱湯をかけ、胸などにやけどを負わせるなどしたという。	検察側	は「男児の顔にたばこの火を押しつけたり、顔を殴ったりするなど、痛
55	官)であり、山田被告は起訴事実を全面的に認めた。即日結審となって	検察側	は「しつつけと称した児童虐待にほかならない」と山田被告に懲役4
60	包丁を投げつけた末にも重傷を負わせた」とされる。 冒頭陳述などで	検察側	は「山田被告は女性と同屋を始めた昨年12月初旬から、しつつけと
60	に対する論告求刑公判が23日、千葉地裁(小池洋吉裁判長)であった。	検察側	は「遊びたい盛りの幼児が約3時間半も柱に縛り付けられた肉体的、精
70	る論告求刑公判が23日、地裁郡山支部(滝沢雄次裁判官)であった。	検察側	は「犯行は残忍かつ悪質。きわめて反社会的な行為」として懲役3年を
76	日の初公判で、知人女性の関与を主張する異例の展開となった。一方の	検察側	は「知人から事情は聴いたが、今のところ関与は認められない」とし、
82	今後の公判が注目される。 名古屋地裁岡崎支部で開かれた初公判で、	検察側	は当初の起訴事実のまま、冒頭陳述した。それによると、梅村被告は
91	する論告求刑公判が二十四日、甲府地裁(山本武久裁判長)で開かれ、	検察側	は懲役五年を求刑した。 起訴状によると、山上被告は昨年十月二十五
92	ったりして、脳挫傷などによる呼吸中枢まひで死亡させたとされる。	検察側	は「被告は無抵抗の子どもに対して、少なくとも約六か月間虐待を繰
96	日、高松地裁(高梨雅夫裁判長)であった。男児が死亡したことから、	検察側	が請求していた傷害致死罪への訴因変更を裁判所が許可した。黒川被告
98	告(25)に対する論告求刑公判が22日、地裁八王子支部であった。	検察側	は「無抵抗であてけない幼児に、殺人に匹敵する極めて強烈な暴行を
98	程度は減退していたが、著しくは減退していなかった」と判断した。	検察側	は、坂中被告が長女にかけていた計3千万円の生命保険金を「二次的
101	告(24)に対する論告求刑公判が12日、地裁八王子支部であった。	検察側	は「自己の都合を最優先し、罪もない児童を死の危険にさらした」とし
101	きだ」とし、執行猶予付きの判決を求めた。判決言い渡しは9月3日。	検察側	は「自己の犯行の発覚を免れつつ、長男の餓死を待ち望んでいたとし
102	わりとりを続け、同年11月に正式に結婚した。 公判の被告人質問、	検察側	から「長女の杏実ちゃんに結婚を許してくれると思うか」と問われた時
105	と母親の万里子被告(23)の公判が24日、名古屋地裁であった。	検察側	は論告で「養育すべき両親が我が子を飢餓死させた重大事件で、飢え
105	して「保護責任者遺棄致死事件の類型だ」とする被告側の反論に対し、	検察側	は論告で「死んでもやむを得ない」という未必の故意による殺意がある
107	(33)に対する第17回公判が2日、名古屋地裁岡崎支部であった。	検察側	が単独犯行を、弁護側が第三者の関与を主張している点について、堀
107	を、弁護側が第三者の関与を主張している点について、堀盛彦裁判長は	検察側	に共犯への訴因変更を促した。 検察側は「検討する」と答えた。これ
107	いる点について、堀盛彦裁判長は検察側に共犯への訴因変更を促した。	検察側	は「検討する」と答えた。 これまで弁護側は、粘着テープで長男を縛
107	えしたが、そのまま放置して同年12月10日、餓死させたとされる。	検察側	は「診察を受けさせなければ衰弱死する危険性を認識しながら、お互
111	んが誕生した当時は、ともに18歳だった。 逮捕から半年余りたった昨	検察側	は、弁護側の求める量刑に中間点を考慮した形の判決と言えるのではな
112	十分な食事を与えていなかった両親に、「未必の故意」があったとする	検察側	に対し、被告・弁護側は殺意を否定し、殺人罪の成否を争っていた。ま
124	た」と改めて殺意を否認し、保護責任者遺棄致死罪にとどまると主張。	検察側	は控訴棄却を求めた。 この事件は児童虐待の一つである「ネグレクト
125	ておらず、どうしていいかわからなかった」とも話していた。 一方、	検察側	が「自分のつらい体験は涙ながらに語るのに、自分がしたことは淡々と
128	無職佐野有佳子被告(28)に対する公判が15日、佐賀地裁であり、	検察側	は「恒常的に児童虐待を行っていた結果だ」として懲役5年を求刑し
129	、ストレスがたまった。泣きやませるために暴力を振るった」と証言。	検察側	は2月12日の論告求刑公判で、見つからないことに憎しみを抱き、感情
130	県内でどのような対策がなされているのか取材した。(仲村和代) <	検察側	冒頭陳述の要旨> 鳴海絵三香被告(27)は98年7月に離婚し、佐
134	岡崎支部で言い渡される。被告の「単独犯行」と認定して立証を進めた	検察側	に対し、弁護側は「知人の女性が指示・主導した」と反証を展開。セ
134	点となっている。 判決がいずれの事実認定をするかで、懲役5年とした	検察側	の求刑に対する量刑判断が左右される。同時に、児童虐待事件の事実
134	助捜査、検察の再捜査・立証の妥当性が問われることにもなりそうだ。	検察側	の論告によると、梅村被告は以前から小学5年生の長男拓哉君(当時
134	判所も弁護側の反証に沿う形で訴因変更を促す訴訟指揮に踏み切った。	検察側	は結審を迎えた昨年10月の公判で、裁判所の求めに応じる形で「女
140	ではないと見たケースワーカーは「虐待は一時的」と判断した。 だが、	検察側	の冒頭陳述によると、一時収まった虐待は1週間后又開した。センター
140	出入りしていたことを全く知らなかったという。 * 虐待事案として扱	検察側	の冒頭陳述などによると、嶋村被告は17歳で前夫と結婚。長女と元
175	市で起きた虐待事件で、傷害致死罪で起訴された母親の弁護側が「	検察側	はＤＶの現実を直視していない」と無罪を主張している。 福岡教育大
180	とした殺意が確固としたものに変った――と説明された。 弁護人は、	検察側	が申請した証拠のうち、兄弟の父親と下山被告の子の供述調書には同
180	はない」とする下山被告本人の供述調書などが証拠として提出された。	検察側	は小林被告を証人に申請した。 次回公判は、2月1日に開かれる。
180	欠回の公判は、2月1日に開かれる。 ○「体に覚えせい刑蔓延」 弁護士	検察側	の冒頭陳述では、下山被告は古くから覚せい剤を使ってきたと指摘さ
184	る論告求刑公判が27日、鹿児島地裁(大原英雄裁判官)で開かれた。	検察側	は「利用者の人間性を侵害した行為は卑劣で反社会的」とし、懲役3年
184	また01年4月と9月にも利用者や職員をつなぐで殴ったとされる。	検察側	は「開園直後から手を上げるなど、起訴事実は常習的犯行の一端にすぎ
191	うつむき、表情をこわばらせた。 灰色トレーナーの上下姿で入廷した鳥	検察側	に有利な証拠ばかりを採用しており、全般的に不満だ」と話し、控訴す
226	7)の論告求刑公判が16日、前橋地裁(久我泰博裁判長)であった。	検察側	は「生後わずか4週間の我が子に執拗(しつよう)に暴行を繰り返すな
226	に暴行を繰り返すなど悪質極まりない」と、懲役15年を求刑した。	検察側	は「顔がかわいくない、泣き声があることで眠れないなどとして次女に
255	判決が1日、東京高裁で言い渡される。「社会的な要請」などを背景に	検察側	がより重い刑を求めて控訴したが、厳罰化だけでは再発防止にならな
255	告(29)に懲役6年6カ月を言い渡した。それぞれ13年と12年の	検察側	の求刑を大きく下回った。 ○殴り金銀に、冷気で正座 判決などによ
255	言した。碧ちゃんとは同日、全身打撃による外傷性ショックで死亡した。	検察側	は両被告の犯行を「殺人に匹敵する」とし、量刑不当として控訴した。

表 18 構成要素クラスターの年次別出現数と割合

	構成要素クラスター	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	行和
1	構成要素クラスター 01	5	2	19	42	42	36	35	86	55	48	370
2	構成要素クラスター 02	21	11	42	76	79	82	40	153	97	100	701
3	構成要素クラスター 03	3	0	12	8	9	21	11	37	18	24	143
4	構成要素クラスター 04	2	0	1	23	8	14	12	47	22	19	148
5	構成要素クラスター 05	0	0	1	9	2	8	2	4	3	8	37
6	構成要素クラスター 06	5	0	9	27	15	23	6	34	21	42	192
7	構成要素クラスター 07	9	0	12	14	6	18	4	51	26	26	166
8	構成要素クラスター 08	5	0	3	2	2	4	1	10	4	3	34
9	構成要素クラスター 09	5	5	4	18	9	6	2	18	8	8	83
10	構成要素クラスター 10	3	0	12	19	8	29	11	26	6	10	124
11	構成要素クラスター 11	10	1	10	26	15	18	15	21	13	18	147
12	構成要素クラスター 12	9	7	16	31	29	39	17	34	34	26	242
13	構成要素クラスター 13	3	1	3	2	11	4	3	10	4	6	47
14	構成要素クラスター 14	1	0	1	8	7	3	1	8	0	3	32
15	構成要素クラスター 15	3	2	4	9	18	19	12	12	6	4	89
	列和	84	29	149	314	260	324	172	551	327	345	2555

	構成要素クラスター	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	行和
1	構成要素クラスター 01	1.4%	0.5%	5.1%	11.4%	11.4%	9.7%	9.5%	23.2%	14.9%	13.0%	100.0%
2	構成要素クラスター 02	3.0%	1.6%	6.0%	10.8%	11.3%	11.7%	5.7%	21.8%	13.8%	14.3%	100.0%
3	構成要素クラスター 03	2.1%	0.0%	8.4%	5.6%	6.3%	14.7%	7.7%	25.9%	12.6%	16.8%	100.0%
4	構成要素クラスター 04	1.4%	0.0%	0.7%	15.5%	5.4%	9.5%	8.1%	31.8%	14.9%	12.8%	100.0%
5	構成要素クラスター 05	0.0%	0.0%	2.7%	24.3%	5.4%	21.6%	5.4%	10.8%	8.1%	21.6%	100.0%
6	構成要素クラスター 06	2.6%	0.0%	4.7%	14.1%	7.8%	12.0%	3.1%	17.7%	16.1%	21.9%	100.0%
7	構成要素クラスター 07	5.4%	0.0%	7.2%	8.4%	3.6%	10.8%	2.4%	30.7%	15.7%	15.7%	100.0%
8	構成要素クラスター 08	14.7%	0.0%	8.8%	5.9%	5.9%	11.8%	2.9%	29.4%	11.8%	8.8%	100.0%
9	構成要素クラスター 09	6.0%	6.0%	4.8%	21.7%	10.8%	7.2%	2.4%	21.7%	9.6%	9.6%	100.0%
10	構成要素クラスター 10	2.4%	0.0%	9.7%	15.3%	6.5%	23.4%	8.9%	21.0%	4.8%	8.1%	100.0%
11	構成要素クラスター 11	6.8%	0.7%	6.8%	17.7%	10.2%	12.2%	10.2%	14.3%	8.8%	12.2%	100.0%
12	構成要素クラスター 12	3.7%	2.9%	6.6%	12.8%	12.0%	16.1%	7.0%	14.0%	14.0%	10.7%	100.0%
13	構成要素クラスター 13	6.4%	2.1%	6.4%	4.3%	23.4%	8.5%	6.4%	21.3%	8.5%	12.8%	100.0%
14	構成要素クラスター 14	3.1%	0.0%	3.1%	25.0%	21.9%	9.4%	3.1%	25.0%	0.0%	9.4%	100.0%
15	構成要素クラスター 15	3.4%	2.2%	4.5%	10.1%	20.2%	21.3%	13.5%	13.5%	6.7%	4.5%	100.0%
	列和	3.3%	1.1%	5.8%	5.8%	10.2%	12.7%	6.7%	21.6%	12.8%	13.5%	100.0%

●解析対象とするクロス表の基礎情報

[ユーザーが指定した課題名] 多次元データ解析の条件 (その 76)

[解析対象とするサンプル数] 258

[解析対象から除外されたサンプル数] 10





## 【考察】

近年文字データを形態素分析により、数量的に扱うことの出来るソフトが開発されてきている。これは、文章である文字データをコンピュータを用いて分析する手法であり、テキスト化された大量の文章データを「分かち書き」し、「キーワード化」することにより、その出現頻度や出現パターンから文脈の変化を探ることができる。この手法は「テキストマイニング」と呼び、マーケティングにおける顧客ニーズの分析、研究分野における文献などの分析、アンケート調査における自由記述項目の分析などに用いられている。そこで、今回この手法を活用して、大量の新聞記事データを分析することを思い当たった。分析すべき内容は、近年、子ども虐待が著しく増加しており、単に潜在していた事例が周囲の意識の高まりにより顕在化したという域は超している。そこで、朝日新聞記事のオンラインデータベースから、1985年から2006年までの記事を「児童虐待」の文字列で検索し、1985年から1996年までは、全記事、1997年以降は虐待の事件事例に関する記事のみを分析対象とした。

分析結果は【結果】の項で示したが、「児童虐待」で検索し抽出した記事件数は1990年頃より増加し始め、2000～2002年に第1のピーク、2004年に第2のピークを示した。これを厚生労働省発表の児童相談所における虐待相談件数と対比すると、記事件数のピークと虐待相談対応件数の急激な増加の年次と一致していた（図7）。これは、マスコミが公表された実態に敏感に反応して、虐待に関する報道に力を入れたことを表している。

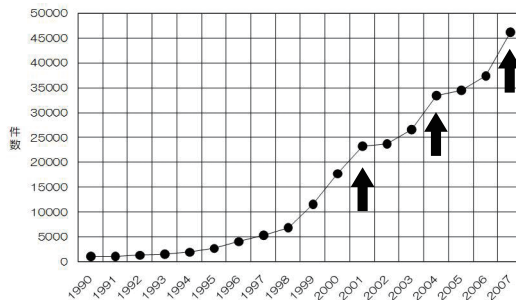


図7 児童相談所における虐待相談件数

子ども虐待防止に向けた社会の取り組みについて、厚労省の資料を引用して解説すると、1989年に国連総会で「児童の権利に関する条約」が採択された。その19条の1に、「States Parties shall take all appropriate legislative, administrative, social and educational measures to protect the child from all forms of physical or mental violence, injury or abuse, neglect or negligent treatment, maltreatment or exploitation, including sexual abuse……」と記載されており、わが国もこの条約に批准して、あらゆる手段を講じて、虐待やネグレクトから子どもを守らなくてはならない義務が課せられた。

1990年度より、厚生省（現厚生労働省）により、児童相談所における虐待に関する相談件数が公表されるようになり、1996年度には「児童虐待ケースマネジメントモデル事業」を8道府県市において実

施し、子ども虐待対応における機関連携が推進されることとなった。さらに、同年度、「子ども虐待防止の手引き」が作成され、学校、保育所、保健所、警察、民生児童委員（主任児童委員）等、関係機関による児童相談所への通告を促すことになった。児童相談所における虐待に関する相談件数は、年々急激な上昇カーブを描いていることは周知の通りであり、このことは、一つには、国民全体に子ども虐待に対する認識が浸透し、高い関心を集めるようになったことも大きな要因と考えられる。

1997年児童福祉法が制定後50年ぶりに大幅に改正され、多様化する児童家庭問題に児童相談所が的確に対応できるように、児童相談所を専門的にバックアップする仕組みが講じられた。

1999年には18歳未満の子どもに対する性的搾取や性的虐待が子どもの権利を著しく侵害し、子どもの心身の発達に多大な影響を与えることから、児童買春や児童ポルノに関する行為を禁止する「児童買春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律」が成立した。

2000年には児童相談所における虐待相談件数の急増、虐待によって生命を奪われたり、生命は奪われないまでも、心身に重大な被害を受ける子どもが後を絶たないことから、国会の衆議院青少年問題に関する特別委員会において、精力的な集中審議が実施され、子どもに対する虐待の禁止、児童虐待の定義、虐待の防止に関する国および地方公共団体の責務、虐待を受けた子どもの保護のための措置等を定め、虐待の防止等に関する施策の推進を図ろうとする「児童虐待の防止等に関する法律」（児童虐待防止法）が制定された。2002年には虐待などにより心身に有害な影響を受けた子どもを養育する里親として、新たに専門里親制度創設された。2004年にはすべての児童擁護施設等に家庭復帰のための調整や相談を行う家庭支援専門相談員（ファミリー・ソーシャル・ワーカー）を配置できるように措置が講じられた。

子どもの人権を擁護するため地方自治体の取り組みも活発化し、「子どもの人権相談室事業」（神奈川県、1998）、「子どもの権利擁護システム（子どもの権利擁護専門員）」（東京都、1998）がスタートし、子ども虐待の予防、啓発、適切な社会的介入に大きく貢献している。

1990～1995年には、大阪の「児童虐待防止協会」（1990）、東京の「子どもの虐待防止センター」（1991）を始めとして、各地で民間団体による取り組みも活発化した。2004年には全国23（現在は25）の児童虐待防止民間団体が集まって、「日本子ども虐待防止民間ネットワーク」が設立された。

しかしながら、その後も深刻な子ども虐待が後を絶たないため、2004年には「児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律」（2004年）（以下「改正児童虐待防止法」）、「児童福祉法の一部を改正する法律」（2004年）が成立し、子ども虐待防止対策の強化が図られた。子ども虐待の定義の明確化、児童相談における市区町村の役割の明確化、要保護児童に関する司法関与の見直しなどが折り込まれた。

2004年の「子ども・子育て応援プラン」において、「虐待により子どもが命を落とさない社会」の実現を目指し、児童相談所の夜間対応の整備、虐待防止ネットワークの設置、里親の拡大など施策の推進、母子保健事業を活用した予防対策の推進などが強化されるようになった。

今回の新聞記事の分析では、「見出し」から抽出したキーワードは、「児童虐待」「子ども（子供を含む）」「虐待」「子育て（育児を含む）」「児童虐待防止法」「相談」「親」といった語句の出現率が高かった。これらの語句の出現数と年次との関係を見ると、「児童虐待」で抽出した記事件数とほぼ平行しており、2000

年から2002年に第1のピークがあり、2004年で第2のピークがあるという出現パターンを示していた。2000年から2002年は児童虐待に対する国の対策が次々と打ち出される中で、2000年には「児童虐待防止法」が成立した年であり、虐待に関するマスコミ報道も増加したものと考える。2004年は「児童虐待防止法」が一部改正され、「子ども子育て応援プラン」の策定や「日本子ども虐待防止民間ネットワーク」が設立されるなど、社会の対応が一段と進展した年である。これらの社会背景を反映して報道量が増加したものであり、国民の意識の高揚へと結びついているものと思う。しかしながら、新聞記事を通していても虐待により、消えていく命の多いことには驚かされる。

日本では1990年頃より虐待に関する関心が高まり、児童虐待に関する新聞記事も1980年代後半では、外国の事例が紹介されているに過ぎないが、1990年を越すと次第に新聞紙上に登場するようになる。1997年を過ぎ頃より増加の速度が速まり、児童相談所における虐待相談件数の上昇カーブに追従して増加していた。1996年までは、虐待が増加している事実やその対策に関する記事が主であったが、1997年を過ぎると、紙上に登場する記事も虐待事件の報道が急増してきていた。新聞記事から抽出されたキーワードをクラスター分類すると、15のクラスターに分けられた。クラスター1は「あざ」「事件」「相談」「暴行」で構成され、発覚した身体的虐待を表していた。クラスター2は「家庭」「近所」「児童虐待」「児童相談所」「逮捕」から構成され、児童虐待の発見のための地域の連携を表していると思われた。このクラスター2はクラスター全体の中でも27.4%と出現頻度が最も高かった。クラスター3は「暴力」「命」「連携」から成り、暴力は身体的虐待行為を意味し、命は前後の文脈で見ても、虐待により消えた命を表しており、連携は専門機関や地域の連携であり、その重要性和機能していない事実が報道されている。クラスター4は「一時保護」「児童虐待防止法」「通告」から成り、児童虐待防止法により、通告を受けて一時保護する児童相談所の権限が強化され、一時保護により子どもが救われる事実が報道されている。クラスター5は「餓死」であり、前後の文脈を探ると、虐待され、食事を与えられず餓死した子どもたちの悲惨な情景が描写されている。クラスター6は「けが」「小学校」「通報」「訪問」で構成され、けがは虐待発見の手がかりになり、小学校は虐待通報の重要機関であるという認識と、訪問は虐待発見の重要な手段であることを報じている。クラスター7は「学校」「警察」「保護」から構成され、学校や警察が虐待を発見して保護に結びつける重要な役割を握っているとの主旨になる。クラスター8は「心」で虐待で傷つけられた心を意味している。クラスター9は「子育て」で子育てのトラブルから子育てへの支援策まで子育てに関する様々な内容が記述されている。クラスター10は「ネグレクト」「怠慢」「養育」ネグレクトそのものであり、養育の怠慢および放棄を表している。クラスター11は「医師」「病院」「放棄」で、医療機関の積極的な関わりが求められ、必要な医療を受けることを放棄している医療ネグレクトの事例を表している。クラスター12は「死亡」「傷害」「食事」「地域」は虐待による死亡と地域の機能の重要性が語られている。クラスター13は「家族」で、核家族による孤立や母親への負担の増加、家族機能の重要性、家族支援などの内容が含まれている。クラスター14は「起訴」で、虐待で起訴された事例の起訴状についての記述である。クラスター15は「検察側」「罪」で、検察の論告と罪状についての記述を表している。

虐待に関する新聞記事の年次的変遷をテキストマイニングの手法を活用して検討してみた。虐待に関す

る記事は、虐待対策としての法の改正や新たな取り組みと平行して、記事数や記事中のキーワードが変化していることがわかった。

## 【結論】

1) 1985年から2006年までの朝日新聞の全国版および地方版記事を対象として、朝日オンラインデータベースを活用し、検索語「児童虐待」により抽出した記事の見出しおよび本文をリソースとして、テキストマイニング・ツールを用いて、年次的な変化を中心に分析を試みた。

2) 各記事から抽出した構成要素（キーワード）のクラスター分類を行い、各クラスターを構成する構成要素（キーワード）をコンコダンス機能を用い、その前後の文脈から意味づけし、各クラスターの意味する内容を読み取った。また、各クラスターの年次別出現パターンを検討し、制度・施策、社会の取り組みとの関係を探った。

3) 虐待に関する記事は1990年より次第に増加し始め、1997年から急激な増加をみせていた。その後2001年と2002年で第1のピークに達し、いったん沈静化するが、2004年で第2のピークに達するというパターンを示していた。これは図らずも厚労省が公表している児童相談所における虐待の相談処理件数のカーブに一致していた。

4) 構成要素（キーワード）はクラスター分析により15のクラスターが抽出された。クラスター1は【**身体的虐待の発覚**】を意味し、クラスター2は【**虐待防止のための連携**】を意味していた。クラスター3は【**虐待により消えた命**】、クラスター4は【**法的緊急措置**】、クラスター5は【**虐待による餓死**】、クラスター6は【**虐待の疑いと確認**】と解釈される。クラスター7は【**学校での対応の重要性と保護**】、クラスター8は【**虐待により傷つけられた心**】、クラスター9は【**子育て**】、クラスター10は【**養育の放棄**】を意味していた。クラスター11は【**医療機関の義務と医療ネグレクト**】、クラスター12は【**（傷害やネグレクトによる）虐待死と地域の機能**】、クラスター13は【**家族**】、クラスター14は【**起訴**】、クラスター15は【**検察による論告と罪状**】を表していた。このうち、クラスター1（【**身体的虐待の発覚**】）、クラスター6（【**虐待の疑いと確認**】）、クラスター7（【**学校での対応の重要性と保護**】）が年々その割合が増加しており、他のクラスターは年々件数は増加しているが、割合の上では大きな変化はみられなかった。

## 参考資料

- 1) 大隅 昇：対応分析法・数量化法Ⅲ類の考え方、統計数理研究所、平和情報センター資料
- 2) 柳原良造：「出会い系サイト」に対する大学生の意見分析—WordMinerによる賛成・反対意見の分析— 平和情報センター資料
- 3) 保田明夫：形態素解析と分かち書き処理：文部科学省統計数理研究所 2003年公開講座資料
- 4) 保田明夫：構成要素変数の生成と編集—WordMiner 辞書関連機能の紹介— 2005年活用セミナー資料
- 5) 日本こども家庭総合研究所編：子ども虐待対応の手引き、平成17年改訂版、有斐閣、2005

6) 厚生労働省公式ホームページ：「子ども・子育て」、

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html> (アクセス 2008 年 6 月)